学生の確保の見通し等を記載した書類

岡山理科大学　獣医学部

学生の確保の見通し等を記載した書類

【目　次】

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

〔１〕 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み‥‥‥

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

国家戦略特区である愛媛県今治市に 1966 年以来、52 年ぶりに獣医学部新設に係る認可の基準の特例が認定され、岡山理科大学が事業主体として選ばれた。獣医学部は四国地区にはなく、本学が西日本地区に私立大学として初めて獣医学部の設置認可申請を行うこととなる。

岡山理科大学（以下、本学）は、昭和 39（1964)年に創立し、理工系学部を中心に 4 万 6 千人の卒業生を輩出してきた。設立母体である学校法人加計学園は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」ことを建学の理念に掲げている。本学は、現在 6 学部(理学部、工学部、総合情報学部、生物地球学部、教育学部、経営学部)を有し、1,615 人の入学定員を有する中国・四国地方で最大規模の私立大学であり、中国・四国地方をはじめ全国から入学者を受入れ、入学定員及び収容定員ともに 1.00 倍を確保している。

本学は、これまで理学部生物化学科、動物学科、生物地球学部を設置し、それらの専門領域、学際領域の教育研究に取り組み、多数の卒業生を輩出してきた。さらに、医療系の分野に理学部応用物理学科、臨床生命科学科、工学部生命医療工学科を設置し、卒業生が臨床工学技士、臨床検査技師として医療現場で活躍している。

これら生物学、基礎動物学、医療分野等での長年の実績及び教育研究体制を確立してきた本学が中国・四国、九州の地理的な中心に位置する愛媛県今治市に新たな獣医学部を設立することは、本学の果たすべき任務であると考え、平成 30（2018）年度獣医学科、獣医保健看護学科からなる獣医学部を設置認可申請する計画である。

本学の獣医学部獣医学科は、先端ライフサイエンス研究の推進や、地域での感染症に係る水際対策など、獣医師が新たに取り組むべき分野に関する専門知識と技能を備えた獣医師を養成する計画である。獣医保健看護学科は、獣医学の基礎的知識と動物看護学の専門的知識・技能を持つ動物看護師としての基盤を備えた獣医関連専門家（Veterinary Para-Professional：以下「VPP」と記す）として、ヒトと動物の安心・安全な共生社会の構築に寄与できる人材を養成する計画である。

〔１〕 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み（獣医学部の地域におけるニーズの見通し）

１）入学定員設定の考え方

本学部の入学定員設定の考え方は、入学定員超過率 1.00 倍を遵守し、全国の獣医学部系統の志願者、入学者数動向、求人件数、就職者の状況、及び施設設備の状況を踏まえた上で、適正な入学者の確保に努める。大学設置基準を十分に上回る専任教員数、校地・校舎面積を設定し、教育研究施設を適切に整備している。

入学定員設定は、後述の定員充足の見込みにおいて説明を行うが、獣医学部のいずれの学科においても、教員一人当たりの学生数等、授業を行う上で、適切な学生数を念頭に置き設定している。後述の高校生アンケートと事業所アンケートの結果からも設定した入学定員の確保の見通しが確認できている。

獣医学部の教員数は獣医学科 75 名、獣医保健看護学科 12 名とし、学生数（入学定員）は、当初獣医学科は 160 名、獣医保健看護学科は 60 名に設定していたが、より確実に本構想を実現するための最善策を検討した結果、獣医学科の入学定員は 140 名に変更した。

学部名	学科名	収容定員	入学定員	教員数
獣医学部	獣医学科	840	140	75
	獣医保健看護学科	240	60	12
	計	1,080	200	87

２）入学定員充足の見込み

本学は理工系を中心とした中国・四国地方に設置する私立大学として、継続して入学定員及び収容定員 1.00 倍を確保し、多数の有為な卒業生を輩出している。また、中国・四国地方を対象に第三者機関による大学ブランド調査が行われ、本学は毎年高い評価を受けている。これら本学が築いた実績とブランド力から、新設学部においても入学定員充足は十分に見込まれる。以下にその詳細を全学的及び新学部の観点から記載する。

① 全国的な入学志願者動向における本学の入学志願者動向

本学の入学志願者動向について、理工系の私立大学に関する志願者動向を概観するため、日本私立学校振興・共済事業団による「私立大学・短期大学等入学志願動向」の分析を行った。私立大学全体、理学・工学系と農学系における平成 24(2012)年度と平成 28(2016)年度の志願者数の動向を検証したところ、私立大学全体の志願者数が 4 年前より 13.4 ポイント伸びていることに対し、理学・工学系、農学系の志願者はそれぞれ、19.9 ポイント、15.2 ポイント伸びている。理学・工学系及び農学系に関する志願者動向は高い水準を維持しており、さらに、第五期科学技術基本計画等、国による理工系人材養成に関する重点方策によって理工系、農学系に興味、関心を持ち、これらの学部学科を目指す学生は今後も増加

していくものと考えられる。

以上の全国的な傾向の分析結果に対し、本学の平成 24(2012)年度の志願者数、平成28(2016)年度の志願者数をみると、本学は 22.5 ポイントという伸びを示し、私立大学の全国、理学・工学系、農学系の値を上回っている。中国地方の大学の平均入学定員超過率は0.9倍台であるが、本学は1.0倍を毎年確保し、志願倍率も中国地方の水準を上回っている。本学の過去 5 年間の志願倍率は 5 倍程度で推移しており、入学者、在学者ともに 1.00 倍を上回る状況である。今後も②で述べる社会の評価もあり、安定的に志願者を集めることが見込まれる。(以上の客観的根拠の概要は「イ－１）全国入学志願者動向と本学の動向について」で示している。)

② 第三者機関の調査結果に基づく本学のブランド力

次に、第三者による本学のブランド力に関する評価として、中国地方 5 県の高校 3 年生を対象に調査した「進学ブランド力調査」(リクルート社) 及び中国・四国地方の有識者を対象とした「大学ブランド・イメージ調査」(日経ＢＰコンサルティング社) によれば、本学は両調査ともに毎年私大 3 位以内にあり、高い評価を得ていることがわかる。

これらの結果、中国・四国地方の高校生及び地元企業等には、本学に対する高い期待と厚い信頼があり、進学先として本学が選ばれていることの証といえる。本学には一定の志願者が継続的に見込まれ、これらの資料からも定員充足の見込みがあるものと判断できる。(以上の客観的根拠の概要は「イ－２）本学の第三者機関による大学ブランド調査」及び「イー３）本学入学者における県外出身者について」で示している。)

③ 学科ごとの入学志願動向及び定員充足の見込み

次に、獣医学部の志願動向について、学科ごとに既設大学の全般的な入学志願者動向、地域別の状況について学校基本調査並びに㈱ＫＥＩアドバンス河合塾グループによる入試結果データにより検証を行った。また、第三者機関による客観的データとして今治市及び㈱ＫＥＩアドバンスが行った現役の高校生に対するアンケート調査結果も用いて、定員充足の見込みに関して次のとおり根拠を述べる。

a) 獣医学科の入学志願動向及び定員充足の見込み

獣医学科に関する直近 5 か年 (2012 年～2016 年) における入学定員充足率は、学校基本調査によると 0.98 倍から 1.18 倍で推移しており、高水準を維持している (表 1-6)。また、獣医学科の志願倍率に関しては、2016 年度の大学全体の志願倍率が 6.7 倍であることに対して、獣医学科は 13.9 倍であり、6 年制学部系統の中でも医学部 (15.4 倍) に次ぐ競争率の高さである (表 1－7)。この競争率の高さのため、現役生の占める割合が相対的に低いことも特徴である。

このような全般的な傾向の中で、新たに入学定員 140 名の獣医学科を四国地区に設置す

るにあたり、本学が主に志願者を集めている近畿以西における潜在的な志願者数を、既設の私立獣医学科、国公立大学の獣医学科の入学者出身地域、獣医系学科の併願状況等により検証した結果、900 名程度の潜在的志願者数を見込めることが判明した（イー４）⑧、⑨で説明)。

さらに、第三者機関として、今治市及び㈱ＫＥＩアドバンスが行った 2 つのアンケート調査を示す。今治市が平成 28 年 3 月に愛媛県内の高校生 1 年生へ実施した意向調査「大学獣医学部の誘致に関する意識調査結果について」では、「今治市への獣医学部誘致が実現した場合」の進学希望の回答は、平成 28 年度 1,281(平成 20 年度 1,037)人の高校生から進学に前向きな回答が得られ、特に「入学したい」平成 28 年度 117(平成 20 年度 118)人、「受験してみたい」123(平成 20 年度 130)人であり、両方を合わせた人数は平成 28 年度 240(平成 20 年度 248)人であり、両年度ともに愛媛県内の高校生だけで獣医学科の入学定員 160 人を上回る結果となった（イー４）⑩)。

また、(株)ＫＥＩアドバンスが行った調査において、獣医学部獣医学科を「受験したい」との質問には 823 名が志願希望を示しており、当初設定の入学定員 160 名に対し 5 倍を超える希望があった。このたび入学定員を 140 名に変更することによって約 6 倍の希望があることになる。

「合格した場合、入学を検討する」と「併願大学の結果によっては入学を検討する」との回答者は合計すると 782 名となり、入学定員 140 名の 5～6 倍となり、定員充足に十分な結果が得られている（KEI アンケート P8、P10)。

b）獣医保健看護学科の入学志願動向及び定員充足の見込み

獣医保健看護学科の入学志願者動向等を検証するにあたり、本学科の構想と同様に、獣医学科を併設し、動物看護教育学標準カリキュラム等を特色としている 2 大学の状況を参考とした。両大学の直近 5 か年（2012 年～2016 年）における入学定員充足率は、1.01～1.20 倍で推移しており、安定して入学定員を確保している（表 1-20)。また、志願倍率においても 2012 年～2014 年は 3 倍以上、2015 年～2016 年でも 2.5 倍強を維持している（表 1-22)。これら 2 大学はいずれも獣医学科を併設しており、自大学も含め、獣医学科との併願状況が多いことも特徴である。本学科は、獣医学科と学部共通導入科目を基盤に連携を強化したカリキュラムを設定し、獣医学の基礎的知識と動物看護学の専門知識と技能を教育することから、本学科の志願者に加え、獣医学科を併願する志願者も見込まれる。

さらに、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）が行ったアンケート調査によるとまず、本学科を「受験したい」と回答したのは 623 名であり、入学定員の 10 倍を上回った。また、「合格した場合、入学を検討する」と回答した者、これに加えて、「併願大学の結果によっては入学を検討する」と回答した者を合計すると合計 571 名の入学希望の意向を示しており、入学定員の 9 倍を超え、定員充足に十分な結果が得られている。

以上のことから、獣医保健看護学科において、60 名の入学定員の設定は妥当であり、入

学定員を確保する見込みがあることが分かる。

３） 基本計画書における定員未充足の学科に関する原因分析および定員設定の合理性

基本計画書において、倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科（定員超過率 0.68）、千葉科学大学薬学部生命薬科学科（定員超過率 0.35）、危機管理学部環境危機管理学科(定員超過率 0.43)、航空技術危機管理学科（定員超過率 0.26）において、定員超過率が 0.7 倍未満である。これらの学科についての定員未充足の原因分析及び定員設定の合理性について示す。

・倉敷芸術科学大学　芸術学部　デザイン芸術学科

過去 5 年間の入学志願状況は下記の通りである。平成 26(2014)年度より美術工芸学科をデザイン学科に吸収、学科名称をデザイン芸術学科とし、入学定員を 55 名としている。

なお、美術工芸学科の入学定員（35 名）については、20 名をデザイン芸術学科、15 名をメディア映像学科に振り替えている。

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成 25(2013)年度	35	70	65	27	0.77
平成 26(2014)年度	55	85	82	36	0.65
平成 27(2015)年度	55	115	101	46	0.83
平成 28(2016)年度	55	119	104	33	0.60
平成 29(2017)年度	55	88	77	31	0.56

未充足の原因は、中国・四国地方における芸術系学部の低迷と、学科の特色、教育内容等が受験生に対して浸透していないことが要因だと考えられる。

・千葉科学大学　薬学部　生命薬科学科

過去 5 年間の入学志願状況は下記の通りである。

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成 25(2013)年度	40	50	47	23	0.57
平成 26(2014)年度	40	72	64	23	0.57
平成 27(2015)年度	40	50	47	19	0.47
平成 28(2016)年度	40	33	32	8	0.20
平成 29(2017)年度	40	32	31	7	0.17

未充足の原因は、全国的な傾向として薬学部系等の全国的な低迷があり、千葉科学大学については、6 年制の薬学科と異なり、4 年制の生命薬科学科では薬剤師受験資格が得られないということが一因である。

・千葉科学大学　危機管理学部　環境危機管理学科

過去 5 年間の入学志願状況は下記の通りである。

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成 25(2013)年度	40	71	67	29	0.72
平成 26(2014)年度	40	57	53	19	0.47
平成 27(2015)年度	40	78	77	28	0.70
平成 28(2016)年度	40	55	54	14	0.35
平成 29(2017)年度	40	29	26	9	0.22

未充足の原因として、理学系の学部にある環境関連学科と比べ、教育内容の特色が受験生に未だ浸透していないこと、就職に直結する資格等がなく、具体的な就職先をイメージし難いことなどが考えられる。

・千葉科学大学　危機管理学部　航空技術危機管理学科

過去 5 年間の入学志願状況は下記の通りである。

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成 25(2013)年度	40	12	12	7	0.17
平成 26(2014)年度	40	25	23	9	0.22
平成 27(2015)年度	40	39	37	12	0.30
平成 28(2016)年度	40	35	34	12	0.30
平成 29(2017)年度	40	19	17	7	0.17

未充足の原因は、他大学の航空関連の学科に比べ、教育内容の特色が学科名より受験生に伝わらないこと、及び航空関連のコース（パイロット・整備コース）の卒業生実績が少ないことが要因と思われる。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

アで示した本学の入学定員充足の根拠となる客観的なデータの詳細について、次のとおり示す。

１）全国入学志願者動向と本学の動向について

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」において、私立大学全体と、本学と関連する理学・工学系、農学系について、平成 24(2012)年度と平成 28(2016)年度の志願者数を確認した（**資料 1 P1-2**）。

表１－１の志願者比較では、私立大学全体の志願者の伸び 13%に対して、私立大学理・工学系の志願者は 11 万人増加し 19%増加、農学部系統も 15%以上の伸びを示し、全体と比して志願者の伸び率の高い人気分野であるといえる。本学の志願者は全国傾向をさらに上回る 22%以上の伸び率を示している。

表 1-1 平成 24 年度と平成 28 年度 志願者の比較

志願者数	A: 平成 24(2012)年度	B: 平成 28(2016)年度	B/A
私立大学全体	3,198,325	3,629,277	113.47%
私大　理学・工学系	553,755	664,238	119.95%
私大　農学系	72,512	83,540	115.20%
（内数獣医学部）	9,712	10,513	108.24%
岡山理科大学	5,817	7,127	122.52%

表 1-2 は、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の地域別動向の過去 5 年間の推移である。本学の入学定員充足率は 1.00 倍以上であり、志願倍率は 4.54 倍から 4.98 倍に上昇している。中国地域 51 学部(広島のぞく)は入学定員の充足率は 0.92 から 0.92 倍、志願倍率は 2.75 倍から 3.10 倍であり、本学はこれら中国地域の平均値を大きく上回っている。

表 1-2　中国地方　私立大学　学部数・志願倍率・充足率

年　　度	平成 24(2012)年度		平成 28(2016)年度	
学部数	48 学部	本学	51 学部	本学
志願倍率	2.75 倍	4.54 倍	3.10 倍	4.98 倍
入学定員充足率	92.61 %	118 %	96.74%	116 %

表 1-3 に本学の志願倍率・充足率を示す。この 5 年間に新学部設置等で入学定員数を 150 名増加し 1,280 名から 1,430 名に増加しているが、志願者数も約 1,200 人以上増加し、本学は 7 年連続志願者数が増加を続け、過去 5 年間の入学者数も入学定員に対して 1.00 倍以上を確保している。収容定員においても過去 5 年間 1.1 倍台で推移し、本学が安定して入学者を確保していることが分かる。

表 1-3　本学の志願倍率・充足率等

年度	入学定員	入学者	在学者	入学定員充足率	収容定員充足率
平成 24(2012)年度	1,280	1,513	5,585	1.18	1.11
平成 25(2013)年度	1,280	1,544	5,845	1.20	1.15
平成 26(2014)年度	1,300	1,535	5,953	1.18	1.16
平成 27(2015)年度	1,300	1,502	5,984	1.15	1.16
平成 28(2016)年度	1,430	1,537	6,011	1.07	1.13

２）本学の第三者機関による大学ブランド調査

中国・四国地方を中心に第三者機関の企業 2 社が大学ブランド調査を実施している。調

査のうちの一つは、㈱リクルート社が中国地方5県の高校生に私立23大学に対して実施する「進学ブランド力調査」である。もう一つは日経ＢＰコンサルティング社が中国・四国の国公私立58大学について有識者に行う「大学ブランド・イメージ調査」である。

㈱リクルート社は中国エリアの高校3年生に中国地方私立23大学に対するイメージアンケートを実施している。その2015-2016年度調査結果では、本学は知名度において、総合で3位（前年度3位)、理系2位（前年度1位)、男子3位(前年度3位)である。さらに女子では5位(前年度5位)、文系では6位（前年度7位）である（**資料2　P1**)。

日経ＢＰコンサルティング社による「大学ブランド・イメージ調査2016～2017【中国・四国編】」の大学ブランド力ランキング（ビジネスパーソンベース）の上位の大学を示したものである（**資料2　P2**）。中国・四国の国公私立58大学において、本学は、例年私大では3位以内、国公立を含めても10位内にランクされており、その推移を表1-4に示す。これら2社の大学ブランド調査の結果から、中国・四国地方の大学において、本学は常に高いブランド・イメージを維持していることがわかる。

表1-4　大学ブランド・イメージ調査における本学の順位(中国・四国地方58校)

年　度	2016－2017	2015－2016	2014－2015	2013－2014
私大内順位	3位	3位	2位	2位
総合順位	7位	9位	5位	9位

３）本学入学者における県外出身者について

表1-5は、本学の平成28(2016)年度入学者の出身県の上位10位を抽出した。上記イ-２）で示した高いブランド・イメージを裏付けるように、本学は中国・四国地方を中心に県外出身者を集め、その割合は67.7%であり、学校基本調査【16出身高校の所在地県別 入学者数】から岡山県の大学全体の県外からの入学者は57.8%(県外者5,231/全入学者9,044)に比べて、約10%高い割合である（**資料3**)。

表1-5　本学平成28年度入学者上位10位（全体1,527人　　県外出身者の割合67.7%）

入学順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
出身県	岡山	広島	兵庫	香川	愛媛	徳島	山口	福岡	島根	高知
入学者数	494	155	145	88	81	65	52	45	41	40
比率	32.3%	10.1%	9.4%	5.7%	5.6%	4.2%	3.4%	2.9%	2.6%	2.6%

本学は、全国的に少ない個性のある学科を有しており、中国・四国地方を中心に全国から入学者が集まっている。県外出身者の比率は、理学部基礎理学科90%、化学科81%、動物学科84%、生物地球学部生物地球学科では79%等の実績がある。今回設置申請を行う、獣医学系統においても、全国的に少ない学科構成であることから全国から広く入学者が集まるものと予想される。

４）獣医学科　既設校の全般的な入学状況・志願動向

① 既存獣医学部の入学者数の推移について

全国にある国公立大学、私立大学の獣医学科（共同獣医学科・課程を含む）について、平成 24（2012）年度から平成 28（2016）年度までの直近の 5 年間の入学者数の推移を、学校基本調査【11 学部別最低在学年限超過学生、16 関係学科別入学者数】から作表したものが表 1-6 である。平成 27、28 年度の 2 年間は、入学志願者数の調査値が掲載されているため、志願者数及び志願者数/入学者数も算出した。

平成 24（2012）～26（2014）年度は、入学者数を抑制していて正規修業年限（6 年）での非卒業者を含めて＜合計（①＋②）＞欄は、930 名前後の約 1.00 倍の入学者になっている。しかし、平成 27（2015）及び 28（2016）年度に関しては、私立大学の入学者が増えたこともあり、入学者数は 930 名を超え、1,054 名、1,093 名で推移し、入学定員を上回る数値で推移していることがわかる。

表 1-6　獣医学科５年間の入学者数の推移

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度			平成28年度		
	入学者数	入学者数	入学者数	志願者数(A)	入学者数(B)	(A)/(B)	志願者数(A)	入学者数(B)	(A)/(B)
①獣医学科　930	835	819	834	13,660	**953**	14.3	13,464	**972**	13.9
国立　330	268	274	273	1,625	274	5.9	1,929	274	7.0
公立　40	49	44	45	410	43	9.5	285	42	6.8
私立　560	518	501	516	11,625	636	18.3	11,250	656	17.1
②修業年限6年超過学生数	73	89	102		101			121	
＜合　計（①+②）＞	908	908	936		1,054			1,093	
入学定員超過率（イ）※930	0.98	0.98	1.01		1.13			1.18	
入学定員超過率（ロ）※900	1.01	1.01	1.04		1.17			1.21	

※入学定員超過率（イ）は入学時に所属の決まらない東京大学の 30 名も含んだ 930 名を分母に、(ロ)は東京大学の 30 名を除いた 900 名を分母にしたもの。

②の修業年限超過学生の数字の多さが、入学者数の抑制に繋がっている。

② ６年制学部系統における入学者の競争率の推移

次に、表 1-7 に学校基本調査【15 関係学科別大学入学状況】より、直近の 2 カ年について志願者数と入学者数の比率を獣医学部と、同じく 6 年制の医学部（科）・歯学部（科）・薬学部（科）、さらに大学全体と比較する。

大学全体の競争率は 6.5 倍、6.7 倍で推移している中で、獣医学科系統の競争率は 14.3 倍、13.9 倍と大学全体の志願倍率の 2 倍に及んでおり、医学部に次ぐ高倍率になっている。

表１－７　直近の２カ年について志願者数と入学者数の比率

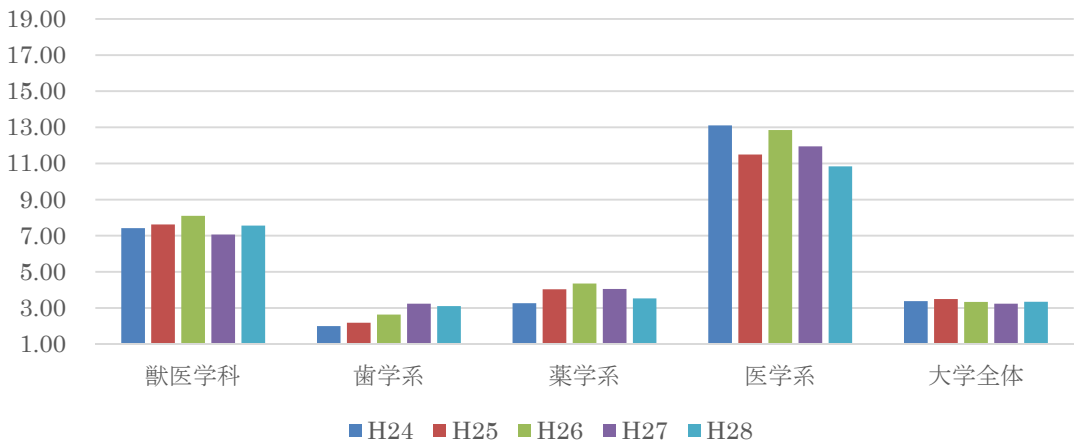
項目	平成 27(2015)年度			平成 28(2016) 年度		
	志願者数 (A)	入学者数 (B)	(A)／(B)	志願者数 (A)	入学者数 (B)	(A)／(B)
●獣医学科等	13,660	953	**14.3**	13,464	972	**13.9**
国立	1,625	274	5.9	1,929	274	7.0
公立	410	43	9.5	285	42	6.8
私立	11,625	636	18.3	11,250	656	17.1
●医学部（6 年制）	141,106	8,726	16.2	136,251	8,858	15.4
国立	29,124	4,520	6.4	27,734	4,530	6.1
公立	4,737	842	5.6	4,502	842	5.3
私立	107,245	3,364	31.9	104,015	3,486	29.8
●歯学部（6 年制）	11,888	2,429	4.9	11,372	2,355	4.8
国立	2,827	495	5.7	2,560	492	5.2
公立	525	94	5.6	525	95	5.5
私立	8,536	1,840	4.6	8,287	1,768	4.7
●薬学部（6 年制）	102,068	11,768	8.7	102,099	11,441	8.9
国立	3,219	491	6.6	3,045	499	6.1
公立	3,184	272	11.7	2,960	286	10.3
私立	95,665	11,005	8.7	96,094	10,656	9.0
◆大学全体	3,983,778	617,507	6.5	4,151,981	618,423	6.7
国立	388,323	100,631	3.9	387,947	100,146	3.9
公立	152,005	30,940	4.9	159,575	31,307	5.1
私立	3,443,450	485,936	7.1	3,604,459	486,970	7.4

③ 過去の合格者の競争率推移　平成 24 年度～26 年度

学校基本調査から直接的に志願者数を拾えない平成 24（2012）～26（2014）年度の 3 カ年を補完するため、河合塾が 6 年制課程の学部についてまとめた入試結果データ（**資料 4**）から 2012～2016 年度の私立大学の競争率 5 年間分をグラフ化したものが表 1-8 である。こ

の動向を見ても、獣医学系（獣医学科）は 6 年制課程において競争率の高い系統で、高校生・受験生にとって難関系統となっていることがわかる。志願者／合格者は、私立大学全体が 3 倍台前半であるのに対し、私立大学獣医学部は毎年約 7 倍の高い倍率で推移している。

表１－８　私立大学６年制　５ヶ年推移



(*) 薬学系の数字には４年制も含む。

④ 既卒者割合の高さ

表 1-7 及び表 1-8 に示したとおり、獣医学科の競争率が高いため、獣医学科の志願動向・入学状況の特徴として、既卒者の割合が相対的に高くなっている。表 1-9 は、平成 24（2012）～26（2014）年度の学校基本調査【15 学科別高校卒業年別　入学志願者数】から抽出し、大学全体と獣医学部・共同獣医学部の入学者の現役比率を示したものである。

表１－９　　平成 24（2012）～26（2014）年度の現役占有率

現役占有率 区分	平成 24(2012) 入学者	平成 25(2013) 入学者	平成 26(2014) 入学者
獣医学部 (獣医学部+共同獣医学部)	51.0%	51.6%	50.0%
※大学全体	76.3%	78.1%	76.4%

現役比率は、大学入試全体としては現役生が約 76%から 78%を現役生が占めている。一方で、獣医学系では約 50%にとどまっており、獣医学系が狭き門であり、既卒者が複数年にわたりチャレンジする状況を示している。

⑤ 私立大学の既卒割合の高さ

私立大学の 2016 年度入試での現役比率について、2017 年度用大学案内、入試ガイド、

受験案内等で学科別の結果が公表されている３つの私立大学の入試結果を表 1-10 に示す。大学によって記載の仕方が異なっているが、この例においても、大学全体と比して、獣医学科系統は、志願者入学者ともに既卒者の割合が高いことがわかる。

表１-10　　2016 年度入試結果（各大学資料より作成）

大　学	入試区分	志願者の現役比率	合格者の現役比率
１．酪農学園大学 獣医学類	第 1 期学力入学試験	志願者：39.2%	合格者：27.7%
	第 2 期学力入学試験	志願者：34.8%	合格者：0%
	センター試験利用入試（前期）	志願者：39.4%	合格者：23.3%
	センター試験利用入試（後期） （出典：酪農学園大学 2017 受験ガイド）	志願者：28.6%	合格者なし
２．北里大学 獣医学部　獣医学科	一般入試・センター利用入試 （出典：北里大学入試ガイド 2017）	志願者：45.4%	合格者：35.7%
３．日本獣医生命科学大学 獣医学部　獣医学科	（出典:日本獣医生命科学大学ガイドブック 2017）	志願者数：2,172 名中 46.5%	入学者 92 名中 56.5%

⑥ 獣医学科　既設校の入学状況・志願動向の地域性

獣医学科の新設は、ほぼ半世紀にわたり抑制され、この間、定員は固定されてきた。獣医学科（共同獣医学科・課程を含む）の既設校及びその入学定員については表 1-11 に示す。930 名の入学定員のうち、東日本地区には全入学定員の 79%にあたる 735 名の定員がある一方で、中部以西は全入学定員の 21%の 195 名しかなく、設置校は国公立大学のみで、私立大学は存在しない。さらに四国地域には養成校自体が存在していない。

表 1-11　2016 年度　入学定員（平成 28 年度全国大学一覧より作成）

地域	国公立大学				私立大学				入学定員地域計
	大学	学部、等	学科・課程	入学定員	大学	学部、等	学科・課程	入学定員	
北海道	北海道	獣医	共同獣医	40	酪農学園	獣医	獣医	120	200
	帯広畜産	畜産	共同獣医	40					
東北	岩手	農	共同獣医	30	北里	獣医	獣医	120	150
関東	東京	農	獣医	30	日本	生物資源科学	獣医	120	385
	東京農工	農	共同獣医	35	日本獣医生命科学	獣医	獣医	80	
					麻布	獣医	獣医	120	
中部	岐阜	応用生物科学	共同獣医	30	－	－	－		30
近畿	大阪府立	生命環境科学	獣医	40	－	－	－		40
中国	鳥取	農	共同獣医	35	－	－	－		65
	山口	共同獣医	獣医	30	－	－	－		
四国	－	－	－		－	－	－		
九州	宮崎	農	獣医	30	－	－	－		60
	鹿児島	共同獣医	獣医	30	－	－	－		
合計	＜国公立計＞			370	＜私立計＞			560	930

⑦ 私立大学の地域別在学者

既設の私立大学について、各大学が公表している 2017 年度募集用の大学資料から、出身者（在籍者）の地域別状況を以下にまとめた。

各大学ともに出身地区が近畿以西の学生は、全体の 20%から 30%台にとどまっており、四国地域の出身者は 3%未満である。４大学の掲載内容はまちまちではあるが、いずれも中国・四国地方、特に四国地方の占有率が低い点は共通している。

表 1-12　酪農学園大学　（在学生都道府県別内訳：2016 年 4 月 1 日現在）

地域	獣医学類	
	在学者数	%
北海道	177	21.1%
東北	35	4.2%
北関東	36	4.3%
南関東	192	22.9%
中部	98	11.7%
近畿　(*)	169	20.2%
中国	38	4.5%

地域	獣医学類	
	在学者数	%
四国	14	1.7%
徳島	5	0.6%
香川	1	0.1%
愛媛	4	0.5%
高知	4	0.5%
九州・沖縄	68	8.1%
その他	10	1.2%
合計	837	100.0%
※近畿～九州	289	34.5%

(*)三重県を近畿に含む

（出典：2017 酪農学園大学受験ガイド）

表 1-13　　北里大学　平成 28 年度志願者数・合格者数

※獣医学部（獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科）としての人数

地域	獣医学部			
	志願者	%	合格者	%
北海道	88	1.8%	35	2.7%
東北	351	7.2%	110	8.4%
北関東	399	8.2%	132	10.1%
南関東	2,100	43.2%	527	40.2%
中部	786	16.2%	237	18.1%
近畿　(*)	584	12.0%	140	10.7%
中国	129	2.7%	38	2.9%

地域	獣医学部			
	志願者	%	合格者	%
四国	45	0.9%	12	0.9%
徳島	12	0.2%	5	0.4%
香川	8	0.2%	2	0.2%
愛媛	15	0.3%	2	0.2%
高知	10	0.2%	3	0.2%
九州・沖縄	325	6.7%	73	5.6%
その他	52	1.1%	7	0.5%
合計	4,859	100.0%	1,311	100.0%
※近畿～九州	1,083	22.3%	263	20.1%

(*)三重県を近畿に含む

（出典：北里大学入試ガイド 2017）

表 1-14 日本獣医生命科学大学　2016 年度入試統計 都道府県別主な入学者出身校一覧

地域	獣医学科	
	主な出身校・掲載校数	%
北海道	1	0.8%
東北	5	3.8%
北関東	6	4.5%
南関東	78	59.1%
中部	9	6.8%
近畿　(*)	14	10.6%
中国	4	3.0%

(*)三重県を近畿に含む

（出典日本獣医生命科学大学 Guidebook2017）

地域	獣医学科	
	主な出身校・掲載校数	%
四国	4	3.0%
徳島	1	0.8%
香川	1	0.8%
愛媛	1	0.8%
高知	1	0.8%
九州・沖縄	10	7.6%
その他	1	0.8%
合計	132	100.0%
※近畿～九州	32	24.2%

表 1-15 麻布大学　2016 年度　志願者数

地域	大学全体・志願者数	%	獣医学科・合格者の主な出身校・校数	%
北海道	38	0.9%	2	0.9%
東北	155	3.5%	5	2.4%
北関東	213	4.8%	13	6.2%
南関東	2,864	64.3%	108	51.2%
中部	515	11.6%	24	11.4%
近畿　(*)	296	6.6%	31	14.7%
中国	90	2.0%	8	3.8%

(*)三重県を近畿に含む

（出典　麻布大学　大学案内 2017　）

地域	大学全体・志願者数	%	獣医学科・合格者の主な出身校・校数	%
四国	46	1.0%	5	2.4%
徳島	9	0.2%	0	0.0%
香川	3	0.1%	1	0.5%
愛媛	23	0.5%	2	0.9%
高知	11	0.2%	2	0.9%
九州・沖縄	200	4.5%	15	7.1%
その他	36	0.8%	0	0.0%
合計	4,453	100.0%	211	100.0%
※近畿～九州	632	14.2%	59	28.0%

⑧ 国公立大学の地域別在学者

国公立大学の志願者の出身地域については、河合塾が毎年収集している大学入試結果追跡データの数値を使用する（**資料 5**)。2014～2016 年度の前期日程について東京大学を除く 10 大学の地域別志願者数の状況は表 1－16 に示す。

河合塾が収集した 2014～2016 年度の志願者数（A 欄）によると毎年 600 名を超える志

願者のうち、近畿以西の志願者（B 欄）が 300 名程度おり、近畿以西出身者の割合(C 欄)は平均 47.36%である。河合塾データの追跡率(F 欄)は国公立大学志願者（E 欄）に対して平均 53.5%である。国公立大学の前期日程での獣医学科の志願者数（E 欄）は毎年約 1,200 名程度で推移しており、前期日程の志願者数が国公立大学獣医学科の志願者数にほぼ相当すると考えると、そのうち近畿以西出身の獣医学科志願者は、G 欄の約 600 名程度と想定される。

表 1-16　河合塾収集データ　国公立大学の志願者の出身地域

地域	2014 前期　志願者	2015 前期　志願者	2016 前期　志願者	3 年間の平均
北海道	36	33	34	5.13%
東北	37	32	41	5.48%
北関東	32	27	22	4.03%
埼千神	71	58	70	9.91%
東京	44	43	55	7.07%
甲信越	32	19	19	3.49%
東海	92	99	81	13.55%
北陸	24	14	17	2.74%
近畿	141	156	166	23.06%
中国	45	41	51	6.82%
四国	20	11	15	2.29%
九州・沖縄	106	94	105	15.19%
その他	9	7	9	1.25%
A　合　　計	689	634	685	100.00%
B　近畿～九州の和	**312**	**302**	**337**	－
C　近畿以西の割合	45.28%	47.63%	49.20%	47.36%
D　四国の割合	2.90%	1.74%	2.19%	2.29%
E 国公立大志願者数	1,294	1,184	1,276	
F 河合塾追跡率(A/E)	53.20%	53.50%	53.70%	
G近畿以西想定数(E*C)	585	563	627	

⑨ 国公立大学と私立大学の併願状況

私立大学の一般入試＋センター利用入試の志願者数は表 1-6 より約 11,000 名超である。複数大学・複数方式で、1 人あたり 5 併願していると仮定した場合、志願者の実数は約 2,200 名程度と想定できる。先の国公立大志願者の 1,200 名を差し引くと、約 1,000 名程度が私立大学を中心に志願している層であると考えられる。現状では私立大学が東日本地区にし

か存在しないため、表 1-12 から表 1-16 の私立大学のデータを参考に 1,000 名中の近畿以西の志願者の比率を 30%弱と仮定すると約 300 名程度となる。

河合塾の大学入試結果追跡データから、東京大学を除く 10 大学の 2016 年度入試での私立大学の併願校のデータを引用したものが表 1-17 である。

表 1-17　国公立獣医学科受験者の併願上位 10 私大のうち、獣医学科の占める割合

Ｎｏ	大学名	Ａ：併願上位 10 私大併願累計数	Ｂ：Ａのうち獣医学科併願数	Ｃ:獣医学科併願割合　Ｂ／Ａ
1	帯広畜産大学　畜産　共同獣医	98	82	83.7%
2	北海道　農　共同獣医	75	58	77.3%
3	岩手大学　共同獣医　獣医	176	154	87.5%
4	東京農工　農　共同獣医	155	125	80.6%
5	岐阜大学　共同獣医　獣医	76	64	84.2%
6	大阪府立大学　生命環境　獣医	93	75	80.6%
7	鳥取大学　農　共同獣医	95	81	85.3%
8	山口大学　共同獣医　獣医	50	43	86.0%
9	宮崎大学　農　獣医	86	75	87.2%
10	鹿児島大学　共同獣医　獣医	58	49	84.5%

表１-17 から、国公立大学の獣医学科の受験生が、私立大学を併願する際に私立大学の獣医学科を受ける割合が 8 割以上である。獣医学科の 6 番目の私立大学が誕生した場合、国公立大学受験層の西日本の併願先として、十分に見込める可能性が考えられる。

⑧、⑨より現状において、ほぼ毎年近畿以西で実数 900 名(国公立併願 600 名＋私大中心 300 名)程度の潜在的獣医学科志望者が存在すると考えることができる。

一方、四国地域における獣医学科への志願者が少ない背景には、獣医学科の入試が難しいこと、域内に養成校がないことなどにより、当初興味を持っても受験時までに敬遠してしまう可能性が考えられる。このことは、表 1-18 平成 28 年 3 月に今治市が愛媛県内の高校 1 年生を対象に実施した高校生の意識調査によると、58 校 8,440 人の回答のうち、5%に相当する 386 人が獣医学部（科）について志望意欲を示す一方で、そのうち 200 人が「獣医学部に進んでみたいけれど志願倍率が高くて難しいと思う」とし、また 114 人が獣医学部に進んでみたいけれども遠くの大学しかないので難しいと思う」として、386 人中 314 人（81%）が興味はあるが、遠方のため進学に対する困難さを感じている高校生が多かった**（資料 6　P3）**。

本学は、国公私立大学を合わせた競合校との併願志望者層を志願者として獲得することに努めるとともに、四国地域はもちろん、西日本地区の獣医学科の潜在的な志望を掘り起

し、獣医師人材のすそ野の拡大に努めることも、約 50 年ぶりの新設を目指す大学としての社会的責務であると考える。

本学科の志願者数の目標として、近畿以西に 900 名の志願者実数があることから、志願者 800 名（入学定員 140 名）、入学実質競争率 5.7 倍以上を想定する。入学者の質を担保しつつ、次項[２]で述べるような学生確保に向けた具体的な各種の取組の展開を通じ、西日本地区を中心に、獣医学分野に対する高校生の関心がさらに深まるように広報活動を展開する。

⑩ 受験生等へのアンケート調査の結果概要

これまでの各種データによる獣医学科の学生確保の見通しについて、実際の受験生へのアンケート調査により、確認を行った結果を示す。獣医学科については、第三者機関が実施した２つの調査を報告する。１つは今治市が愛媛県の高校生を対象にした調査であり、もう一方は本学が(株)KEI アドバンスに依頼し、実施したアンケート調査である。

a) 今治市による獣医学部(獣医学科系)調査結果

今治市が平成 28 年 3 月に、愛媛県内の普通科及び農業関係科の高校 1 年生 10,605 人に対して、「大学獣医学部の誘致に関する意識調査結果について」を実施し、8,440 人から回答を得たものである。この調査は平成 20 年度実施したアンケート調査の再調査の意図で実施されたものである。同調査の中から特に進学希望に関する調査結果を以下に示す。

表 1-18 は、「あなたは、将来、獣医学部に進んでみたいと思いますか？」という獣医学部への進学希望を問う調査については、386(平成 20 年度 301)人が「進みたい」意向を示している。今治市の問 8 の結果を表としたものである（**資料 6 P3**)。

表 1-18 「あなたは、将来、獣医学部に進んでみたいと思いますか？」今治市調査問 8

年　度	A:進みたい	B:進みたいが難易度が高い	C：　計 A＋B	D:　進みたいが遠いため断念	E:　計 C+D
平成 28 年度	72	200	272	114	386
平成 20 年度	85	132	217	84	301

表 1-19 は、問 11「今治市への獣医学部誘致が実現した場合」の進学希望の回答は、1,281(平成 20 年度 1,037)人の高校生から進学に前向きな回答が得られている。特に「入学したい」平成 28 年度 117(平成 20 年度 118)人、「受験してみたい」、平成 28 年度 123(平成 20 年度 130)人であり、両方を合わせた人数は平成 28 年度 240(平成 20 年度 248)人であり、両年度ともに入学定員 140 人を上回った結果となっている。さらに「進学を考えてみたい」を加えると 1,000 人以上となる。今治市の問 11 の結果を表としたものである（**資料 6 P4**)。

表 1-19「今治市への獣医学部誘致が実現した場合」今治市調査　問 11 より

年　度	A:入学したい	B:受験してみたい	C：計 A＋B	D:考えてみたい	E:計 C+D
平成 28 年度	117	123	240	1,041	1,281
平成 20 年度	118	130	248	789	1,037

また、問 12 で今治市への獣医学部誘致が実現した場合のメリットについての質問に、「近くにできるので良い」が 705 人、「進路の選択肢が増える」2300 人にのぼり、進路としての獣医学に関心を高めることにも繋がると考える（**資料 6 P4**）。

b）獣医学部　獣医学科に関する調査（資料 7）

獣医学部　獣医学科については、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）に進学志望調査を依頼した。調査は、平成 29 年 1 月下旬～2 月中旬にかけて、現高校 2 年生（平成 29（2017）年度・新高 3 生）を対象に「高校生アンケート調査（入口調査)」を実施された。調査対象は、平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月上旬に近畿以西（三重県～沖縄県）の高校 2,042 校に対し今治市が行った、国家戦略特別区域の同市に獣医学部の新設を企画するにあたっての高校生調査への協力依頼に了解を受けた 321 校に対し、改めて個別の調査として、設置運営主体に選定された岡山理科大学の獣医学部（仮称・構想中）としての内容（予定）を紹介し、276 校から回答を得たものである。(回答件数 30,851 件　P1-3)。本調査時点（平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月上旬）では、アンケート対象者に対し、獣医学科の入学定員 160 名とした当初計画を提示している。このたび入学定員を 140 名と変更することとなったが、教育内容、教育方法、専任教員数及び教育研究環境等の変更はない。このため、本調査から得られた結果を入学定員 140 名に対する学生確保の見通しの客観的な根拠として用いることは妥当といえる。

まず、獣医学部獣医学科を「受験したい」との質問には 823 名が志願希望を示しており、アンケート調査時の入学定員 160 名の 5 倍を超える希望があった。次に「合格した場合、入学を検討する」との回答者は 256 名、「併願大学の結果によっては入学を検討する」との回答者は 526 名、合計すると 782 名となり、当初入学定員 160 名の約 5 倍となることから、定員充足に十分な結果が得られている。また、「併願大学の結果によっては入学を検討する」の回答者 526 名のうち 82.7%(435 名)が国公立大学を志望していることから、定員充足だけでなく、学力の高い入学者確保にもつながるとの報告を得ている(P8、10)。このたび入学定員を 160 名から 140 名に変更したことで、より確実な学生確保の見通しが得られ、さらに本学科を希望する倍率が上昇し、高い学力水準の入学者確保につながるものと考えられる。

地域別で見た場合、受験希望者及び入学希望者の回答が最も多かったのは福岡県であり、続いて愛媛県、広島県、大阪府、兵庫県の順であった。西日本初の私立大学獣医学部であることから、近隣の大都市圏からの希望者が多いと推測される。また、愛媛県の受験希望

者は 119 名、入学を検討する者は 114 名であった（P9、11）。

以上、獣医学科の客観的なデータ及び 2 件のアンケート調査結果から入学定員の確保は十分可能と思われる。

５）獣医保健看護学科の見通し

本学の獣医保健看護学科には、一般財団法人動物看護師統一認定機構の推奨する動物看護学標準カリキュラムを取り入れる。また、獣医学部には本学科とともに獣医学科が併設されており、獣医師と連携した高度な動物看護師等の専門家養成を目指すため、その教育研究のレベルは高い内容となる。

これら本学科と教育研究内容が近く、かつ獣医学科を併設している２大学＜酪農学園大学（北海道江別市）、日本獣医生命科学大学（東京都）＞の獣医保健看護学科系を競合校と想定して概観する。

① 既存大学の入学者の状況について

酪農学園大学（北海道江別市）、日本獣医生命科学大学（東京都）について、過去 5 年間の入学者数を確認した結果を表 1-20 に示す。両大学とも入学定員を確保しており、5 年間の平均は 106.7%と入学者を安定的に確保している。

表 1-20　獣医学科を併設し、コアカリキュラム審査による統一認定試験受験可能　２大学

大学名	学部名	学科・コース名	入学定員	2012	2013	2014	2015	2016	平均超過率
酪農学園大学	獣医学群	獣医保健看護学類	50	59	59	58	62	64	120.8%
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医保健看護学科	100	100	100	103	104	102	101.8%
―	―	計	150	159	159	161	166	166	106.7%

・酪農学園大学；2012～2014 は「平成 26 年度自己点検評価書」、2015・2016 は同大学ホームページの「入学者数・在学者数・収容定員」より。

・日本獣医生命科学大学；大学ホームページの「入学者数/収容定員/在学者数　等」より。

② 既存大学入学者の出身地域について

両大学の入学者の近畿以西の出身者について調べ、表 1-21 に示した。酪農学園大学（北海道）では在学者の 2 割、51 名が近畿から九州の出身であり、入学者にすると毎年約 13 名、日本獣医生命科学大学（東京）では、入学者の 2 割、27 名である。毎年 40 名程度の西日本

の学生が進学している。また、四国地区の入学者は少数にとどまっている。西日本の学生占有率が低いなかで、西日本から一定数の学生が、両大学に進学するために、北海道や東京等へ進学していることは、この分野への興味と関心が高いことを示すものである。

表 1-21　出身地域別学生数

●酪農学園大学（在学生都道府県別内訳:2016年4月1日現在）

地域	獣医保健看護学類	
	在学者数	%
北海道	85	35.4%
東北	24	10.0%
北関東	9	3.8%
南関東	36	15.0%
中部	34	14.2%
近畿（*）	26	10.8%
中国	8	3.3%
(*)三重県を近畿に含む		

地域	獣医保健看護学類	
	在学者数	%
四国	6	2.5%
徳島	2	0.8%
香川	1	0.4%
愛媛	3	1.3%
高知	0	0.0%
九州・沖縄	11	4.6%
その他	1	0.4%
合計	240	100.0%
※近畿~九州	51	21.3%

●【参考】日本獣医生命科学大学　2016年度入試統計 都道府県別主な入学者出身校一覧より

地域	獣医保健看護学科	
	主な出身校・掲載校数	%
北海道	2	1.5%
東北	6	4.5%
北関東	12	9.0%
南関東	66	49.6%
中部	20	15.0%
近畿（*）	13	9.8%
中国	7	5.3%
(*)三重県を近畿に含む		

地域	獣医保健看護学科	
	主な出身校・掲載校数	%
四国	1	0.8%
徳島	0	0.0%
香川	1	0.8%
愛媛	0	0.0%
高知	0	0.0%
九州・沖縄	6	4.5%
その他	***	***
合計	133	100.0%
※近畿~九州	27	20.3%

出典：2017 酪農学園大学 受験ガイド 37 頁

日本獣医生命科学大学 Guide Book2017　55 頁

③ 志願者・合格者の状況

酪農学園大学、日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学科について、5 年間の志願者数、合格者数、そして倍率のデータを表 1-22 にまとめた。倍率欄は志願者数を合格者数で除した値であり、2012～2014 年度は概ね 3 倍以上、2015・2016 年度でも 2.5 倍強を確保しており、一定の競争率を確保していることが分かる。

表 1-22　獣医学科を併設した動物看護系の入試結果　2012～2016 年度

■志願者数

大学名	学部名	学科・コース名	2012 志願者	2013 志願者	2014 志願者	2015 志願者	2016 志願者
酪農学園	獣医	獣医保健看護	283	304	375	239	307
日本獣医生命科学	獣医	獣医保健看護	687	661	777	644	567
＜合計＞			970	965	1,152	883	874

■合格者数

大学名	学部名	学科・コース名	2012 合格者	2013 合格者	2014 合格者	2015 合格者	2016 合格者
酪農学園	獣医	獣医保健看護	106	105	133	125	123
日本獣医生命科学	獣医	獣医保健看護	151	184	202	207	224
＜合計＞			257	289	335	332	347

■倍率

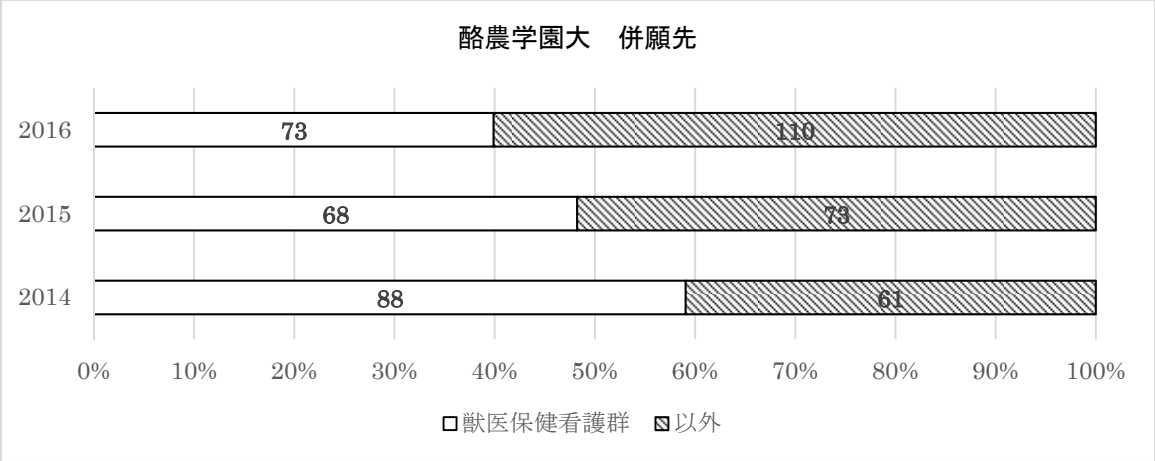
大学名	学部名	学科・コース名	2012 倍率	2013 倍率	2014 倍率	2015 倍率	2016 倍率
酪農学園	獣医	獣医保健看護	2.7	2.9	2.8	1.9	2.5
日本獣医生命科学	獣医	獣医保健看護	4.5	3.6	3.8	3.1	2.5
＜合計＞			3.8	3.3	3.4	2.7	2.5

④ 併願状況について

酪農学園大学、日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学科について、それぞれの併願校・学科を河合塾の大学入試結果追跡データ（2014～2016 年度）からまとめた（各年度上位 10 校まで掲載）。各大学とも、自大学を含めて獣医学科との併願者が多数存在していることがわかる）（**資料 8**）。

酪農学園大学　獣医保健看護学類受験者の併願先の 4 割～6 割、70 から 80 件が、獣医学科を併願している。

表 1-23　酪農学園大学　獣医学群　獣医保健看護学類



日本獣医生命科学大学　獣医保健看護学科の受験者の併願先の、5 割～6 割、180 人から 250 人(重複を含む)が獣医学科を併願している。

表 1-24　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医保健看護学科

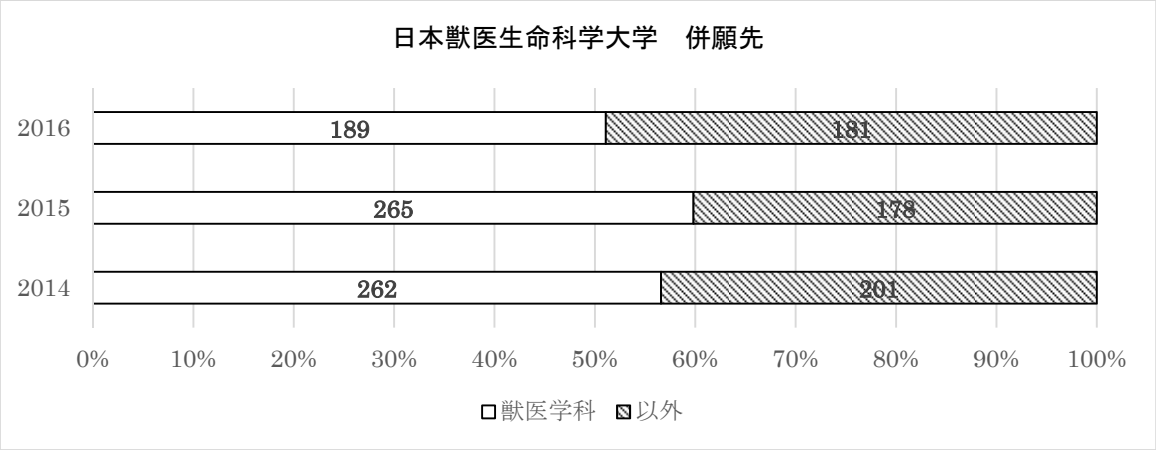


表 1-23 及び 24 から、両大学の獣医保健看護学科を受験した者は、他大学等を併願する際に、約 5 割が獣医学科の併願者であることがわかる。これは両大学の獣医保健看護学科は、獣医学科と隣接する学問領域を教育研究していることが認識されているためと推測される。

⑤ 既設　獣医保健看護学科の動向のまとめ

本学が新設する獣医保健看護学科は、獣医学科と学部共通導入科目を基盤に連携を強化したカリキュラムを設定し、獣医師との協働体制をとれる VPP を養成するための教育を行う。①から④の考察から既存の酪農学園大学、日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学科については、入学者は 1.0 倍以上、志願倍率 2.5 から 3 倍、獣医学科との併願者の多さと偏差値帯の高さ、西日本から 2 割程度の入学者の状況である。

学科構成、教育課程の共通性から、本学科でも同様の傾向が予想され、特にこれまで獣

医学科と連携した高度な獣医関連専門家の養成を行う大学は西日本には無かったこと、また今治キャンパスが中国・四国地方、九州の中心にあることから、中国・四国地方を中心に、九州、近畿地方から入学者が予想される。

⑥ 獣医保健看護学科に関する受験生等へのアンケート調査の結果概要（再掲資料 7）

獣医保健看護学科の学生確保の見通しについて、実際の受験生へのアンケート調査により、確認を行った結果を示す。獣医学部　獣医保健看護学科については、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）に進学志望調査を依頼した。

調査は、平成 29 年 1 月下旬～2 月中旬にかけて、現高校 2 年生（平成 29（2017）年度・新高 3 生）を対象に「高校生アンケート調査（入口調査）」を実施された。調査対象は、平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月上旬に近畿以西（三重県～沖縄県）の高校 2,042 校に対し今治市が行った、国家戦略特別区域の同市に獣医学部の新設を企画するにあたっての高校生調査への協力依頼に了解を受けた 321 校に対し、改めて個別の調査として、設置運営主体に選定された岡山理科大学の獣医学部（仮称・構想中）としての内容（予定）を紹介し、276 校から回答を得たものである。（回答件数 30,851 件　P1、P15）。

獣医保健看護学科の調査概要の数値は、回答者全体の約 75.4%（23,148 名）を占める大学進学希望者の結果を示す。まず、本学科の魅力ある特色についての質問には、「獣医学科に併設、体系的に獣医看護学を学べる」の回答が一番多く（P14）、本学科の競合校として、動物看護教育学標準カリキュラムを備え、獣医学科を併設している大学を想定校としていることは妥当であったと思われる。

本学科を「受験したい」と回答したのは 623 名であり、入学定員の 10 倍を上回った（P15）。また、「合格した場合、入学を検討する」と回答したのは 186 名であった。これに加えて、「併願大学の結果によっては入学を検討する」という回答者が 385 名であり、合計すると 571 名の入学希望者があり、入学定員の 9 倍を超えることから、定員充足に十分な結果が得られている。また「併願大学の結果によっては入学を検討する」との回答者の大学進学希望者のうち 79%（304 名）が国公立大学を志望していることから、定員充足だけでなく、学力の高い入学者の確保にもつながるとの報告を得ている（P17）。回答数の多い県は大阪、兵庫、広島、愛媛、福岡が上位であり、入学を検討する回答者の多い順は、福岡県、愛媛県、広島県、大阪府、兵庫県が多く、近隣大都市からの関心が高いことがわかる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

獣医学部の学生納付金の設定については、獣医学科の学生納付金は私立大学獣医師養成系の学生納付金を参考とした。獣医保健看護学科は動物看護系を参考とした（**資料 9**）。

これら２つの調査で得られた平均額（表 1-25）を参考に検討した結果、獣医学科の入学年次学生納付金は 2,500,000 円とし、入学金は 220,000 円とする。２年次以降の学生納付金については 2,436,000 円に設定した。内訳は、授業料 1,500,000 円、実験実習費は初年度 280,000 円、２年次以降 436,000 円、施設設備費 500,000 円の設定である。

獣医保健看護学科の入学年次学生納付金は 1,530,000 円とし、入学金は全学共通で 220,000 円とする。２年次以降の学生納付金については 1,470,000 円に設定した。内訳は、授業料 845,000 円、実験実習費 165,000 円、施設設備費は初年度 300,000 円、２年次以降 460,000 円の設定である。

これによりシミュレーションを行った結果、完成年度には消費収支差額がプラスになり、学生納付金の設定に問題がないことは確認済みである。

表 1-25　私立大学獣医学系の平均学生納付金

区　分	他大学平均	初年次	2 年次以降平均
獣医学科	2,283,348 円	2,500,000 円	2,436,000 円
獣医保健看護学科	1,610,600 円	1,530,000 円	2 年時以降 1,470,000 円

〔２〕学生確保に向けた具体的な取組状況

本学は、平成 21(2009)年度の志願者 3,969 名から 7 年間連続で志願者を伸ばしており、平成 28(2016)年度の志願者は 7,127 名であった。この増加要因には、本学の特色ある学科構成による質の高い教育研究、さらに学生に対する面倒見の良い大学という評価を得たことなどが考えられる。こうした本学の取り組みを、受験生、高校、予備校、保護者等に対して、広範かつタイムリーに情報提供してきた成果と考えている。

前述のとおり、日経 BP コンサルティング等による大学ブランド力ランキングにおいても、中国・四国地方において高い評価に繋がっている（**資料 2 再掲**）。既設の理学部動物学科、生物地球学部生物地球学科という全国的に見ても特色のある学科は、東日本からも入学者が集まっており、今回の獣医学系においても高い人気が予想される。

1)学生募集、広報活動

学生募集、広報活動は入試広報センター・入試広報部が中心となって行っている。今治キャンパスに獣医学部専従者として、入試広報担当 2 名の専任職員を配置し、今治キャンパスに関する広報活動を行う。具体的には広報誌・インターネット等を利用しての受験生・地域への情報発信、見学会企画、高校訪問等を展開する。

獣医学部を含んだ全学的な観点からの募集活動は、岡山キャンパスの入試広報部が西日本を中心に学生募集・広報活動の企画運営を行う。地元の広報活動を専門的に行う支局長を西日本 11 府県に置き、高校訪問により広報活動を行っている。さらに、全学的な印刷物、ホームページ作成、オープンキャンパスの開催、進学相談会への参加等の各種の取組みを行っている。具体的な活動は次の通りである。

①大学案内などの印刷物の作成：

教育研究内容や進路・就職状況など、大学全般を紹介する『大学案内』、保護者向けの『保護者版大学案内』などを作成する。トピックスを紹介していくマンスリーチラシも年 4

回程度発行する。進学情報誌、進学情報サイトに広告を掲載し、広く情報発信、周知を行っている。

②ホームページの作成・公開：迅速な情報公開を心がけ、更新を行っている。

③オープンキャンパスの実施：年に 3 回（6 月、7 月、9 月）、全学開催し、参加者数は毎年増加、平成 28(2016)年度は前年度より 592 名増加であった。獣医学部も同様に行う。

表 1-26　オープンキャンパス参加者数の推移

年度	6 月	8 月 (2 日間開催)	9 月	合計	増加数
平成 25(2013)年度	451	1,284	439	2,174	－
平成 26(2014)年度	429	1,495	531	2,455	281
平成 27(2015)年度	482	1,792	610	2,884	429
平成 28(2016)年度	636	2,175	665	3,476	592

④学内見学：県内外の高校の学内見学を積極的に受け入れている（年間 40 校前後）。

⑤進学説明会への参加：業者主催の進学説明会に多数参加している（年間約 150 会場）。

⑥高校・予備校訪問：高校や予備校訪問は、西日本を中心に入試広報部が担当。支局長は愛媛県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県倉敷市、広島県、山口県、福岡県、鹿児島県、沖縄県に配置。

⑦高校内ガイダンス・出張講義：ガイダンス（年間約 150 件）、出張講義（年間約 65 件）

以上の活動実績をベースに獣医学部についても積極的に広報を行う。

２）選抜体制

推薦入試、一般入試、特別入試を実施し、獣医学部のアドミッションポリシーに合致した多彩な受験生に対応する入試を用意する。募集人員の大きな一般入試前期ＳＡ方式、ＳＢ方式については、数学、英語、理科(物理・化学・生物)の３科目入試とし、アドミッションポリシーで求める学力を評価する。なお、入学直後から卒業時に求められる英語力を身につけるためのステップアップ教育を行うため、英語のみに重点を置いた入学者選抜は実施しない。一般入試では３教科の合計点で判定を行う。また専願制の特別推薦入試については面接を課し、コミュニケーション能力、グループ活動への適性、自分の意見を持ち表現することができることを評価する。あわせて思考力・判断力・表現力といった学力の３要素を多面的に評価する仕組みをつくる。アドミッションポリシーは、学校案内、ホームページ、各種リーフレットに掲載し周知する。推薦入試の募集人員は、本大学の附属高等学校からの推薦も含め、入学定員の５割を超えない範囲とする。

選抜体制は、公正な判定を保ち、入試の透明性の確保を図るように運営している。入試本部は岡山キャンパスの入試広報部が担い、今治キャンパスにおいては、担当教員との連絡、入試会場の設置など実務を担当する入試広報の専任職員を配置する。合否判定においては、入試広報担当部署が資料作成、原案調整検討委員会、入学委員会、学科会議を経て、

教授会で審議する多段階の判定手順を踏み、適切な判定とアドミッションポリシーとの合致確認が行われるよう選抜体制を整える。特に留学生の受け入れは、募集段階でアドミッションポリシーを周知するため、世界 13 地区に配する海外事務所・支局長を通して広報する。また、文化など生活面のサポートをするために、学園国際交流局、教学・学生支援課との協調を図る。

３）入学試験

本学部の入学者選抜の方法は、獣医学科（表 10-1）、獣医保健看護学科（表 10-2）の区分とする。既存学部の一般入試で実施している地方試験会場（一般入試前期ＳＡ方式で 25 会場等）、センター試験利用入試を活用する。

なお、２０１８年度入試ではセンター試験利用入試を実施しない。これに伴い、センター試験利用入試の募集人員は、一般入試（ＳＡ、ＳＡＢ、ＳＢ、Ｂ1〔獣医学科を除く〕、後期の各方式）に募集人員を振り替える。２０１９年度入試からは、表１０－１、表１０－２のとおり入学者選抜を実施する。

また、獣医学科においては、四国内の高校に在籍、及び在住する生徒を対象にした「特別推薦入試【四国入学枠】」「センター試験利用入試ＣⅠ【四国入学枠】」といった地域枠を設けた入試を導入する。これらの入試では、20 名程度の授業料を減額する四国枠入試特待生制度を設ける。

留学生受入れについては、両学科ともに日本語能力をＮ2 レベル以上とし、修学に必要な日本語能力を身につけている留学生を受け入れる。私費外国人留学生入試【ＥＪＵ利用】、国際バカロレア入試等を実施する。

（表 10-1）　獣医学科　入試区分・選考方法

入試区分			募集	選考方法
推薦入試（入学定員の割合 50%未満）	特別推薦入試※1	専願制	13	書類審査、基礎的な学力試問、面接
	特別推薦入試【四国枠】※1	専願制	16	書類審査、基礎的な学力試問、面接
	専門学科・総合学科特別推薦入試※1	専願制	2	書類審査、基礎的な学力試問、面接
	推薦入試Ａ方式※1	併願制	21	調査書（評定平均値×10）＋学力検査(2 科目)
一般入試（入学定員の割合 50%程度）	ＡＯ入試	専願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	一般入試前期ＳＡ方式	併願制	26	学力検査（3 科目型）
	一般入試前期ＳＡＢ方式	併願制	12	学力検査（3 科目型）
	一般入試前期ＳＢ方式	併願制	8	学力検査（3 科目型）
	一般入試後期(ｾﾝﾀｰ併用) ※2	併願制	4	学力検査（2 科目型）＋センター利用(1 科目型)
	センター試験利用入試ＣⅠ※2	併願制	8	センター利用（4 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅠ【四国枠】※2	併願制	4	センター利用（4 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅡ※2	併願制	4	センター利用（3 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅢ※2	併願制	2	センター利用（3 科目型）
特別入試（入学定員若干名）	私費外国人留学生入試【ＥＪＵ利用】	併願制	20	書類審査、ＥＪＵ（日本語留学試験）の成績、面接
	国際バカロレア入試	併願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	帰国生徒入試	併願制	若干名	書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	社会人入試	併願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）

・2018 年度入試は、下記(※1、※2) の説明内容により入学者選抜を実施する。また、2019 年度入試からは（表 10-1）のとおりとする。
※1：2018 年度については、十分な告知期間が確保できない「特別推薦入試、特別推薦入試【四国枠】」「専門学科・総合学科特別推薦入試」「推薦入試Ａ方式」は実施時期を変更するが、受験生の混乱を防ぐため、それぞれ「獣医学部特別推薦入試」「獣医学部専門学科・総合学科特別推薦入試」「推薦入試Ｃ方式」と名称を変更して実施する。なお、選考方法・募集人員に変更はない。また、特別推薦入試に設けていた【四国枠】は獣医学部特別推薦入試で実施する。
※2：2018 年度については、センター試験を利用しないため、センター試験利用入試の募集人員は、以下のとおり、一般入試（ＳＡ、ＳＡＢ、ＳＢ、後期）に振り替える。
・センター試験利用入試ＣⅠ　8名　→　一般入試前期ＳＡ方式　4名、一般入試前期ＳＡＢ方式　4名
・センター試験利用入試ＣⅠ【四国枠】4名　→　一般入試前期ＳＡ方式　4名
・センター試験利用入試ＣⅡ　4名　→　一般入試前期ＳＢ方式　4名
・センター試験利用入試ＣⅢ　2名　→　一般入試後期　2名
これらセンター試験利用入試の募集人員振替により、一般入試の募集人員は以下のとおりとなる。
・一般入試前期ＳＡ方式　34 名
・一般入試前期ＳＡＢ方式　16 名
・一般入試前期ＳＢ方式　12 名
・一般入試後期　6 名
　また、一般入試後期は学力検査（2 科目）＋センター利用（1 科目）から、学力検査（3 科目）へ変更して実施する。
　なお、ＣⅠに設けていた【四国枠】は一般入試ＳＡ方式で実施する。

（表 10-2）　獣医保健看護学科　入試区分・選考方法

入試区分			募集	選考方法
推薦入試（入学定員の割合 50%未満）	特別推薦入試※1	専願制	10	書類審査、基礎的な学力試問、面接
	専門学科・総合学科特別推薦入試※1	専願制	2	書類審査、基礎的な学力試問、面接
	推薦入試　A 方式※1	併願制	12	調査書（評定平均値×10）＋学力検査(2 科目)
	推薦入試　K 方式	併願制	3	調査書（評定平均値×10）＋学力検査(1 科目)
一般入試（入学定員の割合 50%程度）	ＡＯ入試	専願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	一般入試前期ＳＡ方式	併願制	15	学力検査（3 科目型）
	一般入試前期ＳＡＢ方式	併願制	5	学力検査（高得点 2 科目型）
	一般入試前期ＳＢ方式	併願制	5	学力検査（高得点 2 科目型）
	一般入試前期Ｂ１方式	併願制		学力検査（1 科目型）
	一般入試後期	併願制	1	学力検査（2 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅠ※2	併願制	3	センター利用（4 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅡ※2	併願制	3	センター利用（3 科目型）
	センター試験利用入試ＣⅢ※2	併願制	1	センター利用（2 科目型）
特別入試（入学定員若干名）	私費外国人留学生入試	併願制	若干名	書類審査、学力試問、面接 （ＥＪＵ利用は、書類審査、ＥＪＵの成績、面接）
	国際バカロレア入試	併願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	帰国生徒入試	併願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）
	社会人入試	併願制		書類審査、面接（基礎的な学力試問を含む）

・2018 年度入試は、下記(※1、※2)の説明内容で入学者選抜を実施する。また、2019 年度入試からは（表 10-2）のとおりとする。

※1：2018 年度については、十分な告知期間が確保できない「特別推薦入試」「専門学科・総合学科特別推薦入試」「推薦入試Ａ方式」は実施時期を変更するが、受験生の混乱を防ぐため、それぞれ「獣医学部特別推薦入試」「獣医学部専門学科・総合学科特別推薦入試」「推薦入試Ｃ方式」と名称を変更して実施する。なお、選考方法・募集人員に変更はない。
※2：2018 年度については、センター試験を利用しないため、センター試験利用入試の募集人員は、以下のとおり、一般入試（ＳＡ、ＳＡＢ、ＳＢ、Ｂ１、後期）に振り替える。
・センター試験利用入試ＣⅠ　3名　→　一般入試前期ＳＡ方式　2名、一般入試前期ＳＡＢ方式　1名
・センター試験利用入試ＣⅡ　3名　→　一般入試前期ＳＢ・Ｂ１方式　3名
・センター試験利用入試ＣⅢ　1名　→　一般入試後期　1名
これらセンター試験利用入試の募集人員振替により、一般入試の募集人員は以下のとおりとなる。
・一般入試前期ＳＡ方式　17 名
・一般入試前期ＳＡＢ方式　6名
・一般入試前期ＳＢ・Ｂ１方式　8名
・一般入試後期　2名

４）定員充足状況

本学の定員充足状況は、平成 24（2012)年度 1.18 倍、平成 25（2013)年度 1.20 倍、平成 26(2014)年度 1.18 倍、平成 27(2015)年度 1.15 倍、平成 28(2016)年度 1.06 倍となっている。また学部単位でも、過去 5 年間は全学部で 1.00 倍の入学者を確保している。

本学は、引き続き定員充足率 1.00 倍を目標に、厳正な入試を展開しており、平成 29(2017)年度は 1.02 倍を予定している。

５）定員未充足学科の取り組み

次に、基本計画書の「既設大学等の状況」において、定員未充足である倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科、航空技術危機管理学科の学生確保の取り組みについて述べる。

・倉敷芸術科学大学　芸術学部　デザイン芸術学科

定員を充足するための対策として、在学生への教育の充実を図るとともに、大学案内や入学試験要項等の紙媒体や大学ＷＥＢサイト等を活用し、学部学科のアドミッションポリシー、養成する人材像、教育課程等を社会に対して誤解が生じないよう周知していく。また、高校現場への積極的な広報活動を行い、学部学科の内容をより理解してもらうことで、学生の確保に繋げていく。

・千葉科学大学　薬学部　生命薬科学科

４年制の薬科学科系の定員充足状況は全国的に厳しい状況にある。千葉科学大学では、定員を充足するための対策として、学修内容や就職先、教育内容を周知するために広報活動に積極的に取り組んでいるが、本年度入試においても厳しい状況が続いている。今後、教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。

・千葉科学大学　危機管理学部　環境危機管理学科

定員を充足するための対策として、平成 29（2017）年度から教育・研究内容の充実を目指し、新たなコース設定を行った。また、学科、各研究室で行っている教育・研究内容が受験生に伝わるよう研究テーマ別のリーフレットの作成、これまでの卒業生の具体的な就職先、職種を提示すること等により、学生確保を目差す。今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。

・千葉科学大学　危機管理学部　航空技術危機管理学科

定員を充足するための対策として、進学者の多くが航空関連のコースを希望していることから、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、平成 29（2017）年度に「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、パイロット養成を行う学部・学科を擁する大学の合同説明会である「エアラインパイロット養成大学合同説明会」に参加する等、広報活動も強化している。今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。

（２） 人材需要の動向等社会の要請

〔１〕人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の建学の理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」に基づき、特に獣医学部では、より具体的能力は以下の通りとなる。

●獣医学科　学位授与の方針（ディプロマポリシー）

獣医学科は、次に掲げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（獣医学）の学位を授与する。

A 科学的根拠に基づき動物に関する高度な専門知識と技能を獲得し、専門分野で活躍・貢献できる能力を身につけている。

B 獣医学の知識と技能を基盤として、ライフサイエンス分野、公共獣医事分野、あるいは医獣連携獣医分野への応用力を身につけている。

C 獣医事に関する国際的な視野を有し、日本語及び外国語を用いてコミュニケーションをとることができる。

D 獣医療に携わる者としての生命倫理、科学倫理、動物福祉に基づいた行動規範を身につけている。

●獣医保健看護学科　学位授与の方針（ディプロマポリシー）

獣医保健看護学科は、次に掲げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(獣医保健看護学)の学位を授与する。

A 科学的根拠に基づき動物に関する基礎知識と技術を修得し、専門分野で活躍・貢献できる能力を身につけている。

B 基礎的な獣医学知識と獣医看護学に関する専門知識を基盤として、ライフサイエンス分野、あるいは公共獣医事分野、あるいは獣医療看護分野へ応用できる能力を身につけている。

C 獣医看護学分野に必要なコミュニケーションをとることができる。

D 獣医療に携わる者としての生命倫理、科学倫理、動物福祉に基づいた行動規範を身につけている。

〔２〕 上記〔１〕が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

獣医学科については、新たな分野等の研究や公務に携わる獣医師の将来的な不足について説明し、獣医保健看護学科については、既設の 2 大学の求人状況からの就職状況について説明する。客観的な根拠として、企業等に対して実施したアンケート調査結果を示す。

１）獣医学科

① 新たな分野への供給について

現状の獣医師の職域維持が困難な状況の中で、新たな分野に対応する獣医師の供給は一層困難になっていくことが予想される。今回の国家戦略特区により人獣共通感染症を始め、家畜・食料等を通じた感染症の発生が国際的に拡大する中、創薬プロセスにおける多様な実験動物を用いた先端ライフサイエンス研究の推進や、地域での感染症に係る水際対策など、獣医師が新たに取り組むべき分野における具体的需要は今後、次の分野〈ａ)から ｃ)〉で増加することが予想される。

また、今治市が実施した「大学獣医学部の誘致に関する意識調査結果について」（**再掲資料 6 P2-3**）によると、高校生の獣医学における公務員獣医師、ライフサイエンス研究者及び国際的に活躍する獣医師の認知度は低く、それらの世代に獣医師の役割を広める必要もある。

a) ライフサイエンス研究分野

本学のライフサイエンス分野は、獣医学の基礎研究（創薬シーズ研究）の成果をトランスレーショナル・リサーチ等により、予防・治療など医療に生かす研究分野である。遺伝子や細胞あるいは線虫、実験用のマウスなどで得られた成果を患者に外挿することは困難である。そのため、今後は研究成果の安全性等の有効性をブタやサル類等の高等な実験動物を使って再評価したり、企業化する方策を研究したりすることができる獣医師養成が必要である。

この分野は実験動物を介して創薬等の研究者等を養成し、教育研究機関、企業等への進路が予想される。ここでは獣医師の資格、研究職及び正社員の条件で 3 月 20 日現在、求人情報専門の検索エンジンである indeed で検索した結果、別添のとおり多数の求人がある（**資料 10**）。また、博士課程への進学も想定され、獣医学研究科の入学定員は 6 つの国公立大学の大学院に 82 名、5 つの私立大学の大学院に 43 名　合計 112 名である。また、全国にある医学研究科博士課程の入学定員は合計 4,814 名である。ライフサイエンス分野からの大学院進学先は多数ある（**資料 11**）。

b）公共獣医事分野

・公務員　ＴＰＰ、ＦＴＡに見られるように国際貿易の拡大は関税による自国一次産業の保護政策から、自由貿易物品の拡大、関税撤廃へと動いている。これからは、国内調整完結型の生産業から、国際輸出産業へと転換する必要があり、ＨＡＣＣＰ等の食の安全、ＩＳＯ等の品質保証を管理できる人材が必要である。また、国際的な食品の物流に関しては科学的リスク評価を行う国際対応の可能な行政獣医師等の需要が極めて大きくなる。さらに、人獣共通感染症のヒトで流行する前に動物間での病原体の生態を明らかにして防御体制を敷くことも獣医師の責務である。

今後、これら公共獣医事分野の対応ができる専門獣医師へのニーズは高い。2000 年度の獣医師数は 29,643 名のうち、公衆衛生獣医師は 16%(4,785 名)、新卒は 9%(99 名)であった。これに対して 2011 年獣医師は 35,379 名のうち、公衆衛生獣医師の割合は 14%（5,028 名）と割合が減少、新卒者は 8%（89 名）と人数も割合も減少している。公衆衛生分野の新卒獣医師の供給が減少している（**資料 12**）。

・産業動物診療獣医師　ブタ、ニワトリをはじめ、肉牛においても大規模工場型飼育が盛んとなり、個別診療獣医師に代わって家畜の群管理のできる獣医師の需要が高まりつつある。産業動物診療獣医師の需給見通しについては、現状維持に必要な 4,180 名に対して、600 名不足し、2040 年にはさらに供給が減少し 3,102 名と現状に対して 1,000 名の不足が予想されている。地域別には四国、九州の不足が顕著で現状維持に対して 6 割程度と、4 割もの不足が予想されている（**資料 13**）。

c）医獣連携獣医分野

近年、先進国のみならず発展途上国においても超高齢社会が出現しつつある。高齢化社会では疾病構造の変化が著しく、加齢性疾患の増多は医療費の増加を招来し、国家経済に大きな影響を及ぼすようになった。他方、獣医領域では高齢伴侶動物の急激な増加が起こり、感染症統御から加齢性疾患への対応が新しい課題となっている。これまで人工的に作成した動物モデル(齧歯類)では有効な診断、治療、予防法が見つからない疾患が残ってきた。長寿命の動物モデルはサル類（年間１万頭弱使用）であるが、高齢サルの症例が集まっていない。しかし、日本ではイヌが約 1 千万頭、ネコが約１千万頭、伴侶動物として飼育されている。長寿伴侶動物と老人の疾病構造の類似性から医療は一つ（One Medicine）という戦略で動物とヒトの加齢性疾患に対する新規の診断、予防、治療薬、医療機器開発によるイノベーションに結び付けようという考えがあり、本分野においては、加齢性疾患等の解決のために臨床分野から取り組むものである。

文部科学省から、平成 29 年度の「老化メカニズムの解明・制御プロジェクト」が示され、動物を基盤とした老化メカニズムの解明や老化の制御等を目指す研究開発が期待されている（**資料 14**）。欧米では、加齢性疾患の統御を対象とした医獣連携研究が必要という発想

はすでに実現化されており、米国では NIH が医獣連携獣医師育成を予算化（ペンシルバニア獣医大学が開始）し、同大では医獣連携獣医師の 55%が大学・研究機関、15%が製薬、７%が臨床へと進んでいる（**資料 15**）。これら米国の実績から、本分野の卒業生は、大学院博士課程進学を始め、就職では製薬等の企業、二次診療病院、教育研究機関等への進路が予想される。（**再掲資料 11**）。

② 獣医師の職域と人数について

この②、③、④は、2014 年度獣医師法第 22 条に基づく届出者数に基づく、今後の獣医師需給への考察である。同年度の届出者数は全国で 39,098 人であり（**資料 16**）、表 2-1 に獣医師の各職域を分類・整理し、ア）実際の人数及びイ）維持に必要な毎年の人数として示した。他方、公務員、創薬、産業動物臨床等、現状で不足している分野がある。「獣医師に従事しない」4550 人を不足業種に補充することで、現状数を満たす考え方に従う考察である。現在の獣医師数を維持するために毎年必要な獣医師養成数イ）は、一般的に 25 歳から 60 歳まで 35 年労働すると仮定した。39,098 人／35 年＝1,117 人必要となる。

・イ)より各職域の活動獣医師を現状維持するために必要とする１年あたりの獣医師養成数

1,117 人／年（B)・・・(H26 活動獣医師 39,098 人（A）／35 年)

表 2-1　獣医師の職域分類と人数の関係

大分類	小分類	ア）実際の人数	イ）維持に必要な毎年の人数*
①農水省が管轄(関係)する職域	公務員　国家公務員(134+163)+都道府県公務員(427+2,217+341+93)+市町村公務員、行政機関（58）	3,433	98
	家畜診療・共済・農協診療・競馬・産業動物 市町村公務員、家畜診療（70）+共済（1,716+187）+農協（178+124）+競馬（224）+個人診療施設、産業動物（1,896）	4,395	125
	伴侶動物・製薬企業診療・個人診療・その他 個人診察診療、伴侶動物（15,205）+製薬企業、飼料会社、診療（233）+個人診療、その他診療（140）	15,578	445
②厚労省が管轄(関係)する職域	公務員 国家公務員（37+91+31）+都道府県公務員（369+1,529+142+1,589+199）+市町村公務員（77+817+487+150）	5,518	158
	製薬企業　民間団体職員、製薬・飼料等企業、製薬（1,006）	1,006	29
③その他の職域	国、地方のその他の公務員 国家公務員、環境、その他(7+55)+都道府県公務員、環境、その他(90+79)+市町村公務員、環境、その他（36+188）	455	13
	教育関係 都道府県公務員、教育公務員（46）+市町村公務員、教育公務員（4）+私立学校（686）+独立行政法人、大学（740）	1,476	42
	民間　研究、飼料、その他 民間団体職員、製薬・飼料等企業、試験研究（174）+飼料（156）+その他（838）+社団・財団法人（798）+民間団体職員、その他（292）+その他（158）+独立行政法人、その他（271）	2,687	77
	獣医師に従事しない	△4,550	△130
	不足獣医領域への補充獣医師数＋新たなニーズ	+4,550	+130
＊維持に必要な毎年の人数：25 歳から 60 歳まで 35 年勤続で計算。		39,098	1,117

③ 現状の獣医師の供給について

大学の定員超過抑制のため、大学等設置認可及び私立大学等経常費補助金の基準が厳格化されたことによって、今後の供給不足が想定される。今後の入学者数の見込みを表 2-2 に示す（根拠：「平成 27 年 9 月 18 日 27 文科高第 593 号文部科学省高等教育局長通知」）。また、表 2-3 に、平成 31 年度以降の私立大学の定員抑制後の目安値を示す。

【国立】定員 330 人⇒　実入学者数 346.8 人　⇒　　a:16 人超

【公立】定員 40 人⇒　〃　45.5 人　⇒　　b: 5 人超

【私立】定員 560 人⇒　実入学者数 663 人（平成 28 年度）

⇒H31 以降、表 2-3 により厳格化後遵守した場合 632 人上限　　c:31 人超

以上の試算から、国公私大の定員超過を抑制した場合、今後、現状の入学者数に対して合計約 52 人（C= a + b + c）の超過分が抑制されることが予想される。

表 2-2　獣医系 16 大学の入学定員（930 人）と実際の入学者数の内訳

1.国立大学	定員		実際の入学者数	コメント
北海道	40	共同教育	41.5	新卒国家試験受験者数（61 回～66 回）から入学者数を推計
帯広	40	80	39.5	
岩手	30	共同教育	33.5	
東京農工大	35	65	38.5	
東京	30		31.0	
岐阜	30	共同教育	31.8	
鳥取	35	65	33.2	
山口	30	共同教育	31.8	
鹿児島	30	60	32.0	
宮崎	30		32.0	
国立大学合計	330		346.8	※端数処理の関係で誤差あり
2. 公立大学	定員		実際の入学者数	コメント
大阪府立	40		45.5	在学生総数／６
3.私立大学	学科定員		28 年度入学者数	出典
酪農学園	120		149	同大　受験ガイド
北里	120		132	同大　Guidebook2017
日本	120		145	同大　HP 平成 28 年度
麻布	120		145	同大　大学ポートレート
日本獣医生命科学	80		92	同大　Guidebook2017
私立大学合計	560		663	

・国公立大の実入学者数は過去 3～5 年の入学者平均または学部総数の平均、

私大は平成 28 年度の入学者数

表 2-3　獣医系私立大学が定員抑制をした場合の上限想定数

私立大学	学科定員	入学者上限数	試算根拠
酪農学園	120	138	学部定員 170 のため 1.15 倍
北里	120	132	学部定員 320 のため 1.10 倍
日本	120	132	学部定員 1490 のため 1.10 倍
麻布	120	138	学部定員 180 のため 1.15 倍
日本獣医生命科学	80	92	学部定員 240 のため 1.15 倍
私立大学合計	560	632	

現在の大学の供給する獣医師数として、表 2-4 に獣医師国家試験の新卒受験者数をあげる。国家試験受験者数の新卒者数は 1,009 人であり、表 2-2 より今後の供給は、52 人(C)が減少となる。したがって、今後、大学の定員抑制を受けた後の、獣医学部養成機関からの獣医師の供給見込みは

現状供給数 1,009 人－52 人(C 減少する供給数) ＝　957 人／年 (D) が想定される。

表 2-4　獣医国家試験の受験者・合格者推移

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
新卒受験者	1,064	1,058	1,022	1,009	1,009
既卒受験者	197	188	208	220	282
新卒合格者	968	956	922	856	888
既卒等合格	92	67	89	82	136

④ 現状の需給バランスについて

以上のことから、獣医師の現状の人員体制を維持するために、毎年必要な獣医師養成数 1,117 人(B)＝39,098 人／35 年が必要であることから、

・ニーズ 1,117 人 (B) ＞供給 957 人 (D)　 差 160 人

以上の②から④の考察から、今後の供給可能となる人数 (D) は、現在の状況を維持するニーズ (B) に対して 160 人下回ることが推定される。現状の入学定員数のままでは、現在の獣医師数を将来にわたって維持することが困難であり、定員の増加も必要であるとも考えられる。

⑤ 獣医学科の新設に係る事業所への採用意向調査の概要（資料 17）

これまでの獣医学科の採用動向について、「2018 年度獣医学部新設の構想に係る事業所アンケート調査」を企業、検査機関、官公庁・団体、動物病院等に行った結果を説明する。

獣医学科の趣旨および養成する人材が獣医師であることを示し、採用意欲に関する調査を、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）に依頼した。なお、本調査時点（平成 29 年２月）では、アンケート対象の事業所に対し、獣医学科の入学定員 160 名とした当初計画を提示している。このたび入学定員を 140 名と変更することとなったが、養成する人材像や教育研究上の目的に変更はない。このため、本調査から得られた結果を本学科で養成された 140 名に対する社会的需要の高さを示した客観的な根拠として用いることは妥当である。

調査期間は、平成 29 年（2017）年 2 月に実施し、調査対象の業種は、医薬品・化粧品・医療機器などの関連業 1056(25.9%)、食品関連企業 854(14.2%)、動物病院 641（15.7%)、官公庁・自治体・公共団体が 481（11.8%)、農業生産・畜産関連 332（6.7%)、検査業 218（5.3%）など、合計 4,082 ヶ所(P1)に郵送にて質問票を送付し 607 ヶ所から回答（回収率 14.9%）を得ている。Ｑ２により、回答のあった企業等の所在地は、上位から東京都（11.9%)、広島県（10.9%)、愛媛県（6.4%)、岡山県（5.3%)、香川県（4.9%)、大阪府（4.6%）と続き大都市圏や近隣諸県の比率が高い。下位まで含めると件数は少ないものの 47 全都道府県から回答があり、潜在的なニーズが広域で存在する可能性が考えられる(P2)。

この調査の結果、獣医学科の養成する人材に対する社会的ニーズについて、Ｑ７「獣医学科が育成する人材は社会的にニーズが高いと思われますか。」の質問（P4）を行った。その結果、445 事業所(全体の 73.3%)が「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と回答した。また、Ｑ８「将来採用したいと思われますか。」との質問(P4)について、「ぜひ採用したい」と「採用を検討したい」という回答が計 288 事業所(全体の 47.3%)から得られた。これらの事業所が獣医学科卒業生を採用可能と回答した人数は合計 442 人(P5)であった。

これらの結果から、本学の獣医学科においても、獣医師を養成するため、官公庁・公務員が 164 名と最もニーズが高く、続いて獣医業等が高い結果となった（P5）。

このたび入学定員を 160 名から 140 名と変更することによって、本学科が養成する獣医師に関し、より定員規模に見合った需要が見込まれる。

２） 獣医保健看護学科

本学科は獣医学科と併設する特色をいかして、わが国で獣医関連専門家（VPP）が不足しているライフサイエンス、公共獣医事、獣医保健看護の分野を担う人材を養成する。獣医療関連専門家の人材養成に、獣医学科を併設して取組む教育機関は全国的に２大学しかなく西日本にはない。

本学科は獣医療に携わる獣医関連専門家の養成を目指すため、３分野＜ライフサイエ

ンス＞、＜公共獣医事＞、＜獣医療看護＞から教育を行う、各分野のニーズは次のとおりである。

a）ライフサイエンス分野

この分野では獣医師が多様な実験動物を用いた研究を進めており、様々な動物種の取り扱いや実験処置などにおいて高い技術力を持つ実験動物技術者の存在が必須である。また、近年の遺伝子工学技術の発展により、遺伝子改変動物、ゲノム編集動物が普及しつつあり、特に、げっ歯類を用いた研究では、胚操作技術を持った実験動物技術者のニーズは大きい。研究機関、特に医学系大学の実験動物機関において、げっ歯類以外の高等哺乳動物の健康管理や病態・術後管理ができる人材は不足している。ライフサイエンス・創薬分野において、実験動物に携わる質の高い VPP の養成が求められている。

このため、本学科は(社)日本実験動物協会認定の「実験動物一級技術者」の特例認定校になる予定のため、この分野で学ぶ学生は、企業や教育研究機関等への進路が予想される。実験動物管理の技術者の社会のニーズとして、研究所等の正社員について、求人情報専門の検索エンジンである indeed で検索した結果、多数の求人がある（**資料 18**)。

b）公共獣医事分野

獣医師が不足している公衆衛生及び産業動物診療において、家畜越境感染症の防御や食の安全性を確保する上で、産業動物の健康維持・管理などの日常管理や早期に異常を発見できる獣医関連専門家のニーズは高く、獣医師と連携をすることで、診療の効率化と質の向上をもたらすと考えられる。

このため、職業分野として家畜防疫、食品検査、家畜繁殖・防疫の知識を持つ大動物看護師、家畜改良センター、動物園、地方自治体の畜産系技術職、動物愛護管理行政職等が想定される。

この分野で学ぶ学生は、公務員では農林水産省における畜産系の一般職求人　平成 29 年度　動物検疫所等 16 名、厚生労働省　食品衛生監視員 30 名及び地方公務員等が想定される（**資料 19**)。

c）獣医療看護分野

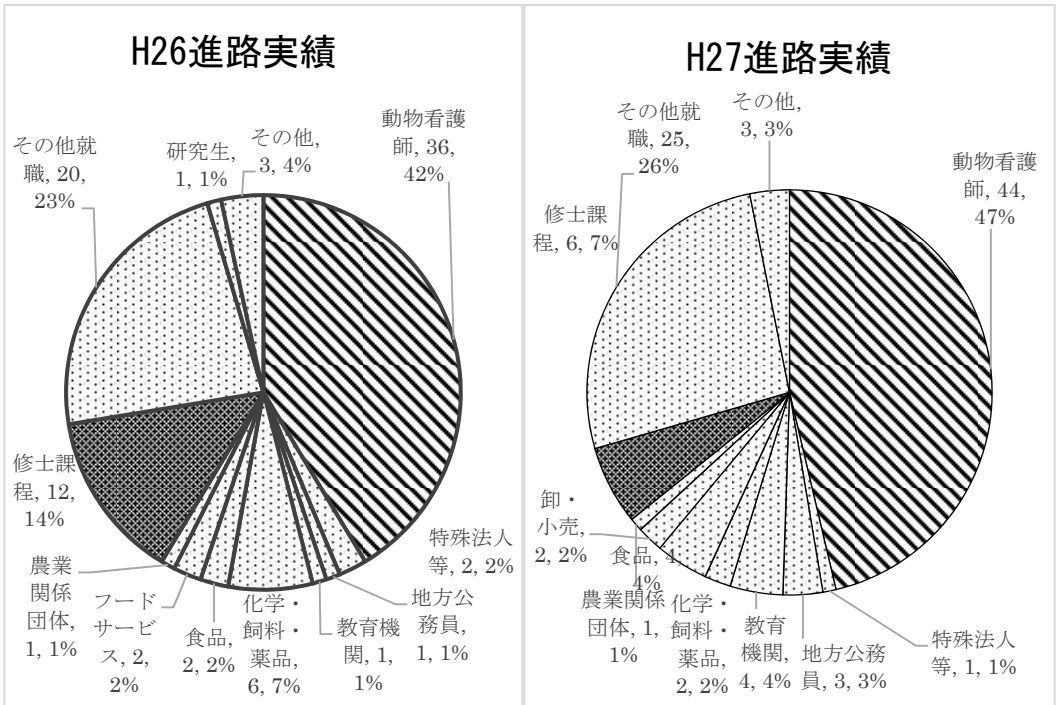
本学科は獣医学科と獣医療をともに学ぶ経験を通じて、獣医療と獣医師とチームを組んで獣医療を実践する認定動物看護師を養成する。現在「認定動物看護師」登録者数は 17,054 名　(2017 年 1 月 19 日現在)である。小動物の開業獣医師が 15,205 名であることから、現在は動物病院の獣医師 1 人あたり看護師 1 人程度の状況である。この分野は動物診療機関として、大学病院、総合病院、個人病院を中心に就職が予想され、その他には、動物臨床検査機関、ペットフードや保険会社等の企業が想定される。

① 既存大学の実績

これら社会のニーズについては、本学と同様に獣医保健看護学科を獣医学部内に獣医学科と併設し、高度医療等に携わる看護師養成を行う酪農学園大学と日本獣医生命科学大学の進路実績をあげる。これら 2 大学について、酪農学園大学の就職データ 2 年間から見ると、約 40 名の就職者の就職先の約 6 割弱が動物病院系に就職をしている。病院以外には製薬、食品、農業等の民間企業、公務員、動物関連のサービス業等に就職をしている（資料 20）。また、日本獣医生命科学大学の獣医学部獣医保健看護学科においては、1 割が進学、5 割弱が動物看護師、その他は公務員、製薬、食品、農業系等を中心に就職をしている。

さらに日本獣医生命科学大学の進学を含めた進路実績を 2 年間見た場合に表 2-5 のとおりとなる。１割程度が大学院へ進学している。本学の獣医保健看護学科においても、獣医学を理解した動物看護師などの獣医関連専門家を養成するため、獣医療関連に精通した看護師として動物病院、動物衛生等の専門技術者として公務員や企業、動物関連の博物館等、製薬、食品、農業等の企業、進学等の幅広い進路が予想される。

表 2-5　日本獣医生命科学大学　獣医保健看護学科の進路実績



② 獣医保健看護学科の新設に係る事業所への採用意向調査の概要（資料 17 再掲）

獣医保健看護学科の人材需要について、「2018 年度学部新設の構想に係る事業所アンケート」を企業、検査機関、官公庁・団体、動物病院等に行った結果を説明する。

獣医保健看護学科の趣旨および養成する人材に対する採用意欲に関する調査を、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）に依頼した。

獣医学科の趣旨および養成する人材に対する採用意欲に関する調査を、第三者機関（㈱ＫＥＩアドバンス）に依頼した。

調査期間は、平成 29 年（2017）年 2 月に実施し、調査対象の業種は、医薬品・化粧品・医療機器などの関連業 1056(25.9%)、食品関連企業 854(14.2%)、動物病院 641（15.7%)、官公庁・自治体・公共団体が 481（11.8%)、農業生産・畜産関連 332（6.7%)、検査業 218（5.3%）など、合計 4,082 ヶ所(P1)に郵送にて質問票を送付し 607 ヶ所から回答（回収率 14.9%)を得ている。Ｑ２により、回答のあった企業等の所在地は、上位から東京都(11.9%)、広島県（10.9%)、愛媛県（6.4%)、岡山県（5.3%)、香川県（4.9%)、大阪府（4.6%）と続き大都市圏や近隣諸県の比率が高い。下位まで含めると件数は少ないものの 47 全都道府県から回答があり、潜在的なニーズが広域で存在する可能性が考えられる(P2)。

この調査の結果、獣医保健看護学科の養成する人材に対する社会的ニーズについて、「獣医保健看護学科が育成する人材は社会的にニーズが高いと思われますか。」の質問を行った。その結果、351 事業所(全体の 57.8%)が「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と回答した。また、「獣医保健看護学科で学んだ人材を将来採用したいと思われますか。」との質問について、「ぜひ採用したい」と「採用を検討したい」という回答が計 170 事業所(全体の 28.0%)から得られた。これらの事業所が採用可能と回答した人数は合計 252 人であった。この調査結果から、学科定員 60 人の 4 倍を超える採用意向があった。

これらの調査を業種別にみると、獣医業 104 人、農・林・漁業 27 人、官公庁 22 人、動物関係企業・団体 19 人、医科学研究等の実験系 15 人、医薬品製造販売 7 人等であった。この他に大学等への進学が想定される。

これらの結果から、本学の獣医保健看護学科においても、獣医学を理解した動物看護師として動物病院、実験動物管理者などの獣医事専門家として研究所や企業等が予定される。

3）企業等の求人動向、支援体制と内定状況

①　本学の求人動向と支援体制

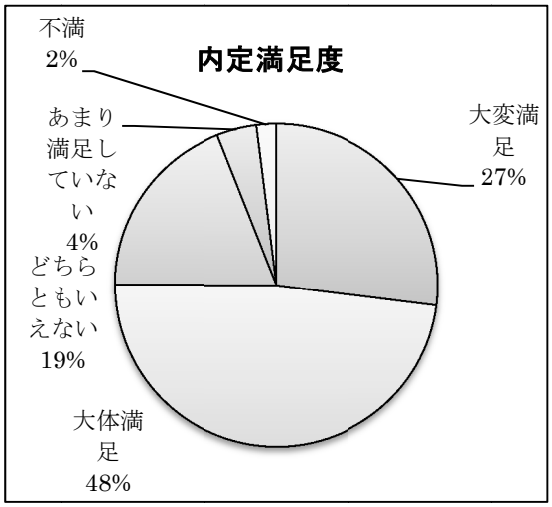
獣医学部の企業等への就職は製薬系、食品、農業等の企業への就職が予想される。企業から本学への求人実績は求人倍率が 5～6 倍を越えており、全国の大学求人倍率平均の１倍台に比べて非常に高い水準で推移している（表 2-6)。本学の支援体制は、文部科学省より特に優れた取り組みであるとして優秀校にも認定(平成 21 年度文部科学省大学教育・学生支援推進プログラムＳ評価)されているため、迅速な情報提供等で学生の就職を支援する。

表 2-6　岡山理科大学求人倍率

民間企業就職	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
A) 本学求人数	4,249	5,111	5,671	5,861
B) 就職希望者数	651	948	932	914
C) 本学求人倍率	6.53	5.39	6.08	6.41
全国大学求人倍率平均	1.28	1.61	1.73	1.74

本学の内定率は、平成25(2013)年度85.9%(就職希望者949人)、平成26(2014)年度87.3%(就職希望者1,041人)、平成27(2015)年度92.3%(就職希望者1,104人)で推移しており、この３年間で就職希望者が200人増加しているが、それ以上に内定者数も増加しており内定率は上昇している。

内定先については、平成26(2014)年３月卒業・修了生対象の調査から、内定満足度のグラフから75%以上が内定先に満足していることがわかる。



②　本学園内の動物関連学科の就職実績

学校法人加計学園が設置する３つの大学（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学）は、動物系の人材養成を行っている。下表は本学において３大学の就職希望者数と求人数を「ライフサイエンス分野」、「公共獣医事分野」及び「医獣連携獣医分野」の３分野に分類したものである。

下表から、106人の就職希望者に対して、549件の求人があり、分野ごとに100人以上の求人があることがわかる。これらの実績からも、獣医学部を設置するにあたり、引き続きこれらの事業所からの求人が想定できる。

表2-6　３大学の動物系就職者に対する就職実績（平成２９年３月３１日現在）

大学名	学科名	就職希望者	ライフサイエンス分野		公共獣医事分野		医獣連携獣医分野	
			求人	内定	求人	内定	求人	内定
岡山理科大学	動物学科	33	152	1	55	1	30	5
倉敷芸術科学大学	生命動物学科	56	8	4	14	0	148	30
千葉科学大学	動物危機管理学科	17	103	2	86	2	48	6
合計		106	218	7	133	3	198	41

※表2-6（**資料21-2**）に添付

４）第 2 回目の獣医学部設置に関わる事業所アンケートの実施結果について

■調査目的：

第 1 回調査において明確でなかった「ライフサイエンス研究分野」、「公共獣医事分野」及び「医獣連携獣医分野」の必要性や具体的な需要、及び四国地域おける獣医師の需要に関し、客観的な根拠を得るため、第三者機関である（株）ＫＥＩアドバンスに依頼し、獣医学部新設の構想に係るアンケート調査（資料 21）を行った。概要は以下の通りである。

○調査機関：平成 29 年　6 月　13 日　～　平成 29 年　6 月　19 日

○調査方法：調査対象事業所にアンケート用紙を送付。

○調査対象：第 1 回同様の各事業所他、2 次診療動物病院、実習先等。

なお、本調査時点（平成 29 年 6 月上旬）において、アンケート対象の事業所に対し、獣医学科の入学定員 160 名とした当初計画を提示している。このたび入学定員を 140 名と変更することとなったが、養成する人材像や教育研究上の目的に変更はない。このため、本調査から得られた結果を本学科で養成された 140 名に対する社会的需要の高さを示した客観的な根拠として用いることは妥当である。

■アンケート調査結果（**資料 21**）

株式会社ＫＥＩアドバンスより報告書が提出され、今回のアンケートでは事業者名記入欄についても設けており、3 分野の必要性や需要について証明された。

【獣医学科】

「ライフサイエンス分野」、「公共獣医事分野」、「医獣連携獣医分野」についての社会的な将来ニーズについての質問項目に対しては、「極めて高い」と回答した割合だけを見ても、ライフサイエンス分野：91 事業所（17.8%）、公共獣医事分野：155 事業所（30.3%）、医獣連携獣医分野：107 事業所（20.9%）となり人材需要が決して低くないことが示された。この回答に「ある程度高い」とした回答を加えると、ほぼ半数の事業所（公共獣医事分野は過半数の事業所）が必要性を認めている。

また、採用意向についても、「ぜひ採用したい」、「採用を検討したい」と回答した事業所のみの採用可能人数を集計した結果、「ライフサイエンス分野：47 事業所 73 人」、「公共獣医事分野：52 事業所 111 人」、「医獣連携獣医分野：55 事業所 55 人」となった。この結果、人材需要の合計数は 239 人となり、これらの分野における人材需要が高いことが示され、特にライフサイエンス分野については主業種を「医科学研究、ヒト試験・動物実験等受託」、「医薬品（化粧品、機能性食品含む）・医療機器開発・製造・販売」、「動物用医薬品」とした事業所を中心に高い需要を示す結果となった。

なお、四国４県での採用可能人数の合計は、「ライフサイエンス分野：6 事業所 8 人」、「公共獣医事分野：8 事業所 11 人」、「医獣連携獣医分野：10 事業所 13 人」となり、一定の需要があることが確認できた。

以上の結果は 160 名の入学定員に対する需要の高さを示したものであるが、このたび入学定員を 140 名と変更することで、より定員規模に見合った確実な需要が見込まれる。

【獣医保健看護学科】

「ライフサイエンス分野」、「公共獣医事分野」、「獣医療看護分野」についての社会的な将来ニーズについての質問項目に対しては、「極めて高い」、「ある程度高い」と回答した事業所の割合が 40%となっており、多くの事業所が必要性を認めていることから人材需要は高いと考えられる。

また、採用意向についても、「ぜひ採用したい」、「採用を検討したい」と回答した事業所のみの採用可能人数を集計した結果、「ライフサイエンス分野：28 事業所 48 人」、「公共獣医事分野：33 事業所 51 人」、「獣医療看護分野：49 事業所 97 人」となった。この結果、人材需要の合計数は 196 人となり、これらの分野における人材需要が高いことが示された。なお、四国４県での採用可能人数の合計は、「ライフサイエンス分野：5 事業所 5 人」、「公共獣医事分野：6 事業所 8 人」、「獣医療看護分野：10 事業所 17 人」となり、一定の需要があることが確認できた。